

北海道大学総合博物館年報 (平成27年度版)

目 次

第1部 博物館の活動記録

| | |
|------------------|----|
| I. 沿革 | 1 |
| II. 組織 | 1 |
| III. 学術標本・データベース | 9 |
| IV. 高等教育 | 24 |
| V. 展示活動 | 27 |
| VI. 社会教育・普及活動 | 33 |
| VII. 各種協定締結状況 | 40 |
| VIII. 刊行物等 | 40 |

第2部 博物館教員の活動記録

| | |
|-----------------|----|
| <平成27年度の新聞報道記録> | 93 |
| <平成27年度の予算状況> | 95 |

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は1876(明治9)年に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第1年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って7年後の1884(明治17)年に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。

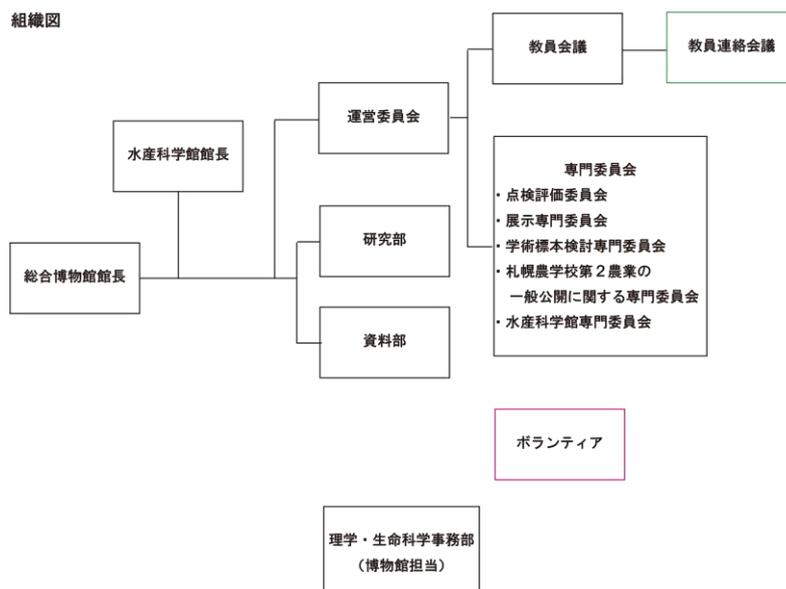
札幌農学校開校以来138年の研究成果として、現在400万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には1万3千点以上のタイプ標本が含まれている。

これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966(昭和41)年から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約9,000㎡の総合博物館にする構想がまとまり、1999(平成11)年度、文部省より設置が認められた。2001(平成13)年には、本学創基125周年次事業の一環として、第1期工事分3,000㎡の改修が行われ公開展示が開始された。2014(平成26)年には、第2、第3期6,000㎡の改修・耐震工事に着手し、来年2016(平成28)年に展示室・収蔵庫・研究教育関連スペースが完備する予定である。総合博物館は、北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に利活用する場として、その役割はますます大きなものとなっている。

なお、2007(平成19)年には、水産科学研究院の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。

II. 組織

1. 組織(平成27年度)



2. 総合博物館運営委員会(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

・運営委員会

平成27(2015)年4月1日～

| | | |
|--------------------|-----|--------|
| 総合博物館 | 館長 | 中川 光弘 |
| | 副学長 | 川端 和重 |
| 附属図書館 | 館長 | 新田 孝彦 |
| 大学院文学研究科 | 教授 | 佐々木 亨 |
| 大学院IT・コミュニケーション研究院 | 教授 | 宇佐見 森吉 |
| 大学院水産科学研究院 | 教授 | 足立 伸次 |
| 大学院先端生命科学研究院 | 教授 | 金城 政孝 |
| 触媒科学研究所 | 教授 | 高橋 保 |
| 大学院薬学研究院 | 教授 | 前仲 勝実 |
| 大学院保健科学研究院 | 教授 | 齋藤 健 |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 秋元 信一 |
| 大学院水産科学研究院 | 教授 | 矢部 衛 |
| 総合博物館 | 教授 | 高橋 英樹 |
| 総合博物館 | 教授 | 大原 昌宏 |
| 総合博物館 | 准教授 | 湯浅 万紀子 |
| 総合博物館 | 准教授 | 小林 快次 |
| 総合博物館 | 准教授 | 山本 順司 |
| 総合博物館 | 講師 | 阿部 剛史 |
| 総合博物館 | 講師 | 江田 真毅 |

運営委員会は以下の通り開催された。

(2015年度)

第1回 27.4.7 メール持ち回り／第2回 27.4.28／第3回 27.6.12／
第4回 27.9.14 メール持ち回り／第5回 28.2.10／第6回 28.2.24

3. 総合博物館点検評価委員会(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

・点検評価委員会

平成27(2015)年4月1日～

| | | |
|------------|------|-------|
| 総合博物館 | 館長 | 中川 光弘 |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 秋元 信一 |
| 大学院文学研究科 | 教授 | 佐々木 亨 |
| 総合博物館 | 教授 | 高橋 英樹 |
| 総合博物館 | 教授 | 大原 昌宏 |
| 理学・生命科学事務部 | 事務部長 | 小谷 正雄 |

点検評価委員会は以下の通り開催された。

(2015年度)

第1回 27.12.14／第2回 28.3.24／第3回 28.3.31 メール持ち回り

4. 展示専門委員会(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

・展示専門委員会

平成 27 (2015) 年 4 月 1 日～

| | | |
|----------|-----|------------------|
| 大学院文学研究科 | 教授 | 佐々木 亨 (委員長) |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 秋元 信一 |
| 総合博物館 | 教授 | 高橋 英樹 |
| 総合博物館 | 教授 | 大原 昌宏 |
| 総合博物館 | 准教授 | 湯浅 万紀子 |
| 総合博物館 | 准教授 | 小林 快次 |
| 総合博物館 | 准教授 | 山本 順司 |
| 総合博物館 | 講師 | 阿部 剛史 |
| 総合博物館 | 講師 | 江田 真毅 |
| 総合博物館 | 助教 | 山下 俊介 (27.12.1～) |

展示専門委員会は以下の通り、開催された。

(2015 年度)

第 1 回 27.10.7

5. 学術標本検討専門委員会(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

・学術標本検討専門委員会

平成 27 (2015) 年 4 月 1 日～

| | | |
|--------------|------|-------------------|
| 大学院文学研究科 | 教授 | 佐々木 亨 |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 秋元 信一 (委員長) |
| 大学院農学研究院 | 准教授 | 吉澤 和徳 |
| 大学院理学研究院 | 特任教授 | 杉山 滋郎 |
| 大学院理学研究院 | 准教授 | 柁原 宏 |
| 大学院医学研究科 | 教授 | 清水 宏 |
| 大学院獣医学研究科 | 教授 | 坪田 敏男 |
| 大学院水産科学研究院 | 教授 | 綿貫 豊 |
| 大学院地球環境科学研究院 | 教授 | 大原 雅 |
| 総合博物館 | 教授 | 高橋 英樹 |
| 総合博物館 | 教授 | 大原 昌宏 |
| 総合博物館 | 准教授 | 湯浅 万紀子 |
| 総合博物館 | 准教授 | 小林 快次 |
| 総合博物館 | 准教授 | 山本 順司 |
| 総合博物館 | 講師 | 阿部 剛史 |
| 総合博物館 | 講師 | 江田 真毅 |
| 総合博物館 | 助教 | 河合 俊郎 |
| 総合博物館 | 助教 | 山下 俊介(27. 7. 16～) |

学術標本検討専門委員会は以下の通り、開催された。

(2015 年度)

第 1 回 27. 11. 2

6. 札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

・札幌農学校第2農場の

一般公開に関する専門委員会

平成 27 (2015) 年 4 月 1 日～

| | | | |
|------------|--------|----|----------------|
| 大学院工学研究院 | 助教 | 池上 | 重康 |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 秋元 | 信一 |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 柴田 | 洋一 (委員長) |
| 大学院農学研究院 | 特任教授 | 近藤 | 誠司 |
| 大学院農学研究院 | 准教授 | 片岡 | 崇 (27.7.12 まで) |
| 大学院農学研究院 | 准教授 | 石井 | 一暢 (27.7.13～) |
| 総合博物館 | 教授 | 高橋 | 英樹 |
| 総合博物館 | 教授 | 大原 | 昌宏 |
| 総合博物館 | 准教授 | 山本 | 順司 |
| 総合博物館 | 講師 | 江田 | 真毅 |
| 総合博物館 | 資料部研究員 | 高井 | 宗宏 |
| 理学・生命科学事務部 | 事務部長 | 小谷 | 正雄 |
| 施設部環境配慮促進課 | 課長 | 柴田 | 大 |

札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会は以下の通り開催された。

(2015 年度)

第1回 27.5.15 / 第2回 27.9.25 / 第3回 27.10.14 メール持ち回り /
第4回 28.2.22 メール持ち回り / 第5回 28.3.7

7. 総合博物館水産科学館専門委員会

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

・水産科学館専門委員会

平成 27 (2015) 年 4 月 1 日～

| | | | |
|------------|-----|----|----|
| 大学院水産科学研究院 | 教授 | 矢部 | 衛 |
| 総合博物館 | 教授 | 高橋 | 英樹 |
| 総合博物館 | 助教 | 河合 | 俊郎 |
| 大学院水産科学研究院 | 教授 | 綿貫 | 豊 |
| 大学院水産科学研究院 | 准教授 | 清水 | 晋 |
| 大学院水産科学研究院 | 准教授 | 東藤 | 孝 |
| 大学院水産科学研究院 | 教授 | 水田 | 浩之 |
| 大学院水産科学研究院 | 准教授 | 岸村 | 栄毅 |
| 大学院水産科学研究院 | 准教授 | 山口 | 篤 |
| 大学院水産科学研究院 | 准教授 | 今村 | 央 |
| 大学院水産科学研究院 | 助教 | 李 | 大雄 |

8. 総合博物館研究部

<研究部>

平成 27(2015)年度 (研究部長 高橋)

○資料基礎研究系

教 授 高橋 英樹 (植物体系学)

教 授 大原 昌宏 (昆虫体系学)

講 師 阿部 剛史 (海藻分類学)

助 教 河合 俊郎 (魚類分類学)

○資料開発研究系

准教授 小林 快次 (古生物学)

准教授 山本 順司 (地球科学)

講 師 江田 真毅 (考古学)

○博物館教育・メディア研究系

准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)

助 教 山下 俊介 (映像資料学) 平成 27 (2015) 年 7 月 16 日～

教員会議は、館長および研究部の教員によって構成される。

教員会議は、以下の通り開催された。

(2015 年度)

第 1 回 27. 4. 22 / 第 2 回 27. 6. 10 / 第 3 回 27. 10. 5 メール持ち回り /

第 4 回 27. 12. 11 メール持ち回り / 第 5 回 28. 2. 3 / 第 6 回 28. 2. 24 /

第 7 回 28. 3. 23

9. 資料部研究員

平成 27 (2015) 年度

| | | | | |
|------------------|------|--------|-------|-------|
| 大学院文学研究科 | 教授 | 佐々木 亨 | 総合博物館 | 石川満寿夫 |
| 大学院文学研究科 | 特任教授 | 津曲 敏郎 | 総合博物館 | 泉 洋江 |
| 大学院理学研究院 | 教授 | 堀口 健雄 | 総合博物館 | 稲荷 尚記 |
| 大学院理学研究院 | 教授 | 増田 隆一 | 総合博物館 | 越前谷宏紀 |
| 大学院理学研究院 | 准教授 | 柁原 宏 | 総合博物館 | 岡田 大岬 |
| 大学院理学研究院 | 准教授 | 小亀 一弘 | 総合博物館 | 小野 裕子 |
| 大学院理学研究院 | 准教授 | 沢田 健 | 総合博物館 | 菊田 融 |
| 大学院工学研究院 | 助教 | 池上 重康 | 総合博物館 | 小林 孝人 |
| 大学院工学研究院 | 助教 | 小野 修司 | | |
| 大学院薬学研究院 | 技術職員 | 乙黒 聡子 | | |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 秋元 信一 | | |
| | | (資料部長) | | |
| 大学院農学研究院 | 教授 | 佐野 雄三 | | |
| 大学院農学研究院 | 講師 | 宮本 敏澄 | | |
| 大学院農学研究院 | 准教授 | 吉澤 和徳 | | |
| 大学院農学研究院 | 特任教授 | 近藤 誠司 | | |
| 大学院獣医学研究科 | 教授 | 片倉 賢 | | |
| 大学院水産科学研究院 | 准教授 | 今村 央 | | |
| 大学院地球環境科学研究院 | 教授 | 大原 雅 | | |
| 大学院地球環境科学研究院 | 特任教授 | 木村 正人 | | |
| 北方生物圏フィールド科学センター | 准教授 | 四ツ倉 典滋 | | |
| 北方生物圏フィールド科学センター | 助教 | 東 隆行 | | |
| アイヌ・先住民研究センター | 教授 | 加藤 博文 | | |
| 埋蔵文化財調査センター | 助教 | 高倉 純 | | |
| 埋蔵文化財調査センター | 助教 | 守屋 豊人 | | |
| 北海道教育大学 | 教授 | 高久 元 | | |
| 浦幌町立博物館 | 学芸員 | 持田 誠 | | |
| 沼田町化石館 | 学芸員 | 田中 嘉寛 | | |
| 千歳科学技術大学 | 教授 | 下村 政嗣 | | |
| 国立科学博物館 | 研究主幹 | 篠原 現人 | | |
| 国立科学博物館 | 研究員 | 谷亀 高広 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 小笠原 正明 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 片倉 晴雄 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 諏訪 正明 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 戸田 正憲 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 仲谷 一宏 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 藤田 正一 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 増田 道夫 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 松枝 大治 | | |
| 北海道大学 | 名誉教授 | 馬渡 駿介 | | |
| 本学退職教員 | | 天野 哲也 | | |
| 本学退職教員 | | 高井 宗宏 | | |
| 本学退職教員 | | 新井田 清信 | | |
| 本学退職教員 | | 春木 雅寛 | | |

10. 客員教授・外国人研究員（平成27年度在任）

○平成27年10月27日～平成28年3月10日・特任教授

Currie Philip John（古脊椎動物学）（カナダ・アルバータ大学）

11. 国内研究員（平成27年度在任） なし

III. 学術標本・データベース

1. 陸上植物標本コレクション (SAPS)

【利活用】

北大総合博物館植物標本庫利用者数 (人・日) 記録

| 年度 | 学内 | 学外 | 総計 |
|------|----|----|----|
| 2015 | 2 | 27 | 29 |

標本庫は学内の院生・学生により日常的に利用されている。「学内」とした記録はゲストブックに記録されている者のみで、実際の利用者の一部である。

1-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ: 2015 年度)

- 2015.04.07 山崎真実 (札幌市博物館活動センター) *Ranunculus* など
2015.05.08 小玉愛子 (苫小牧市美術博物館) タンポポ属
2015.05.11 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館) 釧路地方産植物
2015.05.12 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館) シダ植物
2015.05.14 武田千恵子 (札幌市) シダ植物
2015.05.27 佐藤理夫 (市立函館博物館) 須川長之助採集標本
2015.05.28 佐藤理夫 (市立函館博物館) 須川長之助採集標本
2015.06.24 加藤克 (北海道大学植物園) 須崎忠助図関連標本
2015.07.22 Eric DeChaine (Western Washington Univ.) *Saxifraga*
2015.08.07 Mo-Shih Tang (Nat. Sun-Yat San Univ., TAIWAN) *Daphniphyllum*
2015.08.25 早瀬裕也 (富山大学理工学教育部) *Artemisia*, *Leontopodium*
2015.08.31 高嶋八千代 (釧路市) ヤチツツジ、アザミ類
2015.09.01 高嶋八千代 (釧路市) サヤスゲ、ハリスゲ
2015.09.14 加藤沙織 (福島大学黒沢研究室) ミズトンボ属、ネムノキ属
2015.09.14 根本秀一 (福島大学黒沢研究室) *Veronica*
2015.10.13 内田暁友 (知床博物館) 知床半島産植物
2015.11.27 上野雄規 (宮城県植物誌編集委員会) 宮城産標本、*Utricularia*
2015.11.27 国京潤一 (宮城県植物誌編集委員会) 宮城産標本、アザミ属、
トウヒレン属
2015.11.27 五十嵐博 (北海道野生植物研究所) マメ科 3 種
2015.11.28 上野雄規 (宮城県植物誌編集委員会) 宮城産標本
2015.11.28 国京潤一 (宮城県植物誌編集委員会) 宮城産標本
2016.01.22 内田暁友 (知床博物館) シダ類

2016.01.26 中村裕 ((株) ドーコン) 維管束植物
2016.01.26 桜井善文 ((株) ドーコン) 維管束植物
2016.01.26 畠山亜希子 (札幌市) 維管束植物
2016.01.26 志田祐一郎 (野生生物総合研究所) イグサ科、カヤツリグサ科
2016.01.28 上原久美子 (北大環境科学院) キク科、ツクバネソウ
2016.02.11 五十嵐博 (北海道野生植物研究所)
2016.02.17 佐藤理夫 (市立函館博物館) ヤマナルコ他

1-2) 貸出・送付標本、研究用試料提供記録 (2015 年度)

2015. 11.30 藤井紀行 (熊本大学大学院自然科学研究科) *Pedicularis chamissonis* 164 枚.

1-3) 受領標本記録 (2015 年度)

なし

1-4) SAPS 標本が引用されている主な論文 (2015)

1. A.K.M. Golam Sarwar and H. Takahashi (2015) Pollen development in *Enkianthus perulatus* (Miq.) C.K.Schneid. (Ericaceae, Enkianthoideae). *Jpn. J. Palynol.* **61**: 1-9.
2. Sato, H., Sato, K. and H. Takahashi (2015) Variation of hairiness of leaf sheaths of *Calamagrostis gigas* (Poaceae). *J. Jpn. Bot.* **90**: 386-398.
3. 佐藤広行. 2015. 北海道厚岸町におけるスズタケの一斉開花について. *Bamboo Journal* (29): 40-44.

2. 菌類標本コレクション (SAPA)

【利活用】

2-1) 標本庫利用者記録 (2015 年度)

2015.06.01 梶原行人 (北大農学部植物園)

2-2) SAPA 標本が引用された主な論文 (2015 年)

小林孝人・寺嶋芳江 2015 西表島で採集したシロテングタケについて. *ポルチーニ (藻岩山きのご観察会会報誌)* 12: 12.

2-3) 受領標本記録 (2015 年度)

なし

3. 海藻標本コレクション(SAP)

【利活用】

3-1) 標本閲覧 (2015年度)

学内1件 学外5件 国外3件 計9件

*学内の藻類関連研究室の教員・学生による利用は日常的に行われており、上記記録には含まれない。

2015.05.08-11 北山太樹、国立科学博物館
2015.05.15 Patrick Marton, University of British Columbia, Canada
2015.05.15 Collin Roberts, University of British Columbia, Canada
2015.06.15 井坂友一、厚岸臨海実験所
2015.07.02 Tatyana A. Klochkova, Kongju National University, Korea
2015.08.24 宮入陽介、東京大学
2015.10.01-02 柴田健介、愛麺 (株)
2015.10.16 Lawrence M. Liao、広島大学
2015.11.12 川井浩史、神戸大学

3-2) 標本貸出 (2015年度)

件数0件

3-3) SAP標本が引用された主な論文 (国際誌のみ: 2015年)

1. Delimitation of cryptic species of the *Scytosiphon lomentaria* complex (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae) in Japan, based on mitochondrial and nuclear molecular markers. Kazuhiro Kogame, Shozo Ishikawa, Kei Yamauchi, Shinya Uwai, Akira Kurihara and Michio Masuda. *Phycological Research* **63**(3): 167-177.
2. Taxonomic re-examination of Japanese *Halimeda* species using genetic markers, and proposal of a new species *Halimeda ryukyuensis* (Bryopsidales, Chlorophyta). Rei Kojima, Takeaki Hanyuda and Hiroshi Kawai. *Phycological Research* **63**(3): 178-188.
3. Morphology and phylogenetic position of a freshwater *Prasiola* species (Prasiolales, Chlorophyta) in Korea. Moon Sook Kim, Man-Sig Jun, Cho A Kim, Jihae Yoon, Jin Hee Kim and Ga Youn Cho. *Algae* **30**(3): 197-205.
4. A phylogenetic re-appraisal of the family Liagoraceae sensu lato (Nemaliales, Rhodophyta) based on sequence analyses of two plastid genes and postfertilization development. Showe-Mei Lin, Conxi Rodríguez-Prieto, John

- M. Huisman, Michael D. Guiry, Claude Payri, Wendy A. Nelson and Shao-Lun Liu. *Journal of Phycology* **51**(3): 546-559.
5. A molecular evaluation of the Liagoraceae sensu lato (Nemaliales, Rhodophyta) in Bermuda including *Liagora nesophila* sp. nov. and *Yamadaella grassyi* sp. nov. Thea R. Popolizio, Craig W. Schneider and Christopher E. Lane. *Journal of Phycology* **51**(4): 637-658.
 6. A new molecular phylogeny of the *Laurencia* complex (Rhodophyta, Rhodomelaceae) and a review of key morphological characters result in a new genus, *Coronaphycus*, and a description of *C. novus*. Yola Metti, Alan J. K. Millar and Peter Steinberg. *Journal of Phycology* **51**(5): 929-942.
 7. Reappraisal of nine species of *Martensia* (Delesseriaceae, Rhodophyta) reported from Korea based on morphology and molecular analyses. Jeong Chan Kang, Mi Yeon Yang, Showe-Mei Lin and Myung Sook Kim. *Botanica Marina* **58**(3): 151-166.
 8. Two species of the genus *Acinetospora* (Ectocarpales, Phaeophyceae) from Japan: *A. filamentosa* comb. nov. and *A. asiatica* sp. nov. Kousuke Yaegashi, Yukimasa Yamagishi, Shinya Uwai, Tsuyoshi Abe, Wilfred John Eria Santiañez and Kazuhiro Kogame. *Botanica Marina* **58**(5): 331-343.
 9. Phylogeographic assessment of panmictic *Monostroma* species from Kuroshio Coast, Japan, reveals sympatric speciation. Felix Bast, Satoshi Kubota and Kazuo Okuda. *Journal of Applied Phycology* **27**(4): 1725-1735.
 10. Genetic diversity and mitochondrial introgression in *Scytosiphon lomentaria* (Ectocarpales, Phaeophyceae) in the north-eastern Atlantic Ocean. Kogame, K., Rindi, F., Peters, A. F., and Guiry, M. D. *Phycologia* **54**(4): 367-374.
 11. *Pellucidodinium psammophilum* gen & sp. nov. and *Nusuttodinium desymbiontum* sp. nov. (Dinophyceae), two novel heterotrophs closely related to kleptochloroplastidic dinoflagellates. Onuma, R., Watanabe, K. & Horiguchi, T. *Phycologia* **54**(2): 192-209.

4. 昆虫標本コレクション (SEHU)

【利活用】

| 年度 | 学外者国内 | 学外者海外 | 総計 |
|------|-------|-------|----|
| 2015 | 10 | 3 | 13 |

標本庫は学内の学生・院生・ボランティアによって恒常的に利用されており、「学外者」のみ国内、海外に分けて記した。

4-1) 貸出記録 (日付/貸出者住所または所属/氏名/貸出分類群) (2015)
(2015年) 9件

2015. 02. 16/九州大学院生物資源環境科学府/河野太祐/Hymenoptera: コガネコバチ科 Pteromalidae
2015. 02. 16/茨城大学理学部/諸岡 歩希/Hymenoptera: スズメバチ科
2015. 02. 16/愛媛大学農学部環境昆虫学研究室/小西和彦/Hymenoptera: Icheumonidae
2015. 02. 16/千葉市中央区矢作町/直海 俊一郎/Coleoptera: Staphylinidae
2015. 02. 16/Institut f_r Spezielle Zoologie und Evolutionsbiologie mit Phyletischem Museum/Ming BAI/Coleoptera: Scarabaeidae
2015. 02. 16/Lab. Animal Systematics, Dep. Life Science, Yeungnam University/Lee, Jeong-Wook/Hymenoptera: Icheumonidae
2015. 03. 30/神戸大学人間発達環境学/高見泰興/Orthoptera アカハネバッタ
2015. 08. 09/Lab. Of Animal Systematic, Department of Life Science, Yeungnam Univ./Choi, Jin-Kyung/Hymenoptera: Ichneumonidae: Campopleginae
2015. 12. 02/台中国立自然科学博物館/Tsai Jing Fu/Hemiptera: Heteroptera : Acanthosomatidae

(2015年度 : 2016.1-3) 5件

2016. 01. 20/帯広市/鳥倉英徳/Hemiptera: Aphididae : 高橋コレクション
2016. 01. 22/Department of Biology, Chungnam National University, /Ahn, Kee-Jeon (Lee, Jea-Seok)/Coleoptera, Staphylinidae
2016. 02. 09/大阪府豊野群豊野町/安藤清志/Coleoptera: Tenebrionidae : Nakane coll.
2016. 02. 10/北海道教育大学旭川/奥寺繁/Hemiptera: ヨコバイ科
2016. 03. 04/愛媛大学農学部 環境昆虫学研究室/池田大/Coleoptera: Melyridae

4-2) 受領標本記録 (2015年度)

櫛下町博士 (鹿児島大学) ハチ類標本 : 約 500 箱 (2016年 3月 13日受入)

4-3) SEHU 標本が引用された主な論文

(2015年度) 4件

福田晴夫・二町一成, 2015. パラオ諸島の 1984年および 2010年のチョウ類(2).

Butterflies, (68): 31–49.

Sheng, M.-L., T. Li & J.-F. Cao, 2015. Three new species of genus *Sinophorus* Förster (Hymenoptera, Ichneumonidae) parasitizing and defoliating Lepidoptera.

Zootaxa, 3942(2): 268–280.

市毛勝義, 2015. 日本産シママメヒラタバブ亜属について. *はなあぶ*, (40): 37-43.

Terayama, M., & T. Mita, 2015. New species of the genera *Methocha* Lateille and *Hylomesa* Krombein from Japan (Hymenoptera: Tiphidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 21(2): 373–380.

5. 魚類標本コレクション (HUMZ)

【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。2015年度は魚類標本の収蔵される水産生物標本館の建替えのため、収蔵される標本の観察・貸出等を中止している。

5-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ : 2015. 4-2016. 3)

なし

5-2) 貸出・送付標本記録 (2015. 4-2016. 3)

なし

5-3) 新規標本記録 (2015年度)

2015度 : 2,579点

5-4) 証拠標本として引用された主な論文 (2015年)

Anderson, W. D., Johnson, G. D. and Baldwin, C. C., 2015. Review of the Splendid Perches, *Callanthias* (Percoidei: Callanthiidae). *Transactions of the American Philosophical Society*. ProQuest Research Library, xxii + 121 pp.

Hatano, M., Abe, T., Wada, T. and Munehara, H., 2015. Ontogenetic metamorphosis and extreme sexual dimorphism in lumpsuckers: *Eumicrotremus asperrimus*, *Cyclopteroopsis bergi* and *Cyclopteroopsis lindbergi*, may be synonymous. *Journal of Fish Biology* (Doi:10.1111/jfb.12627).

Hibino, Y., Ho, H.-C. and Kimura, S., 2015. A new genus and species of worm eels,

- Sympenchelys taiwanensis* (Anguilliformes: Ophichthidae: Myrophinae), from the northwestern Pacific Ocean. *Zootaxa*, 4060(1): 41-48.
- Hibino, Y. and Kimura, S., 2015. A new species of *Muraenichthys* (Anguilliformes: Ophichthidae) from the Indo-Pacific, with revised generic diagnosis. *Zootaxa*, 4060(1): 62-70.
- Hibino, Y., Satapoomin, U. and Kimura, S., 2015. A new species of *Neenchelys* (Anguilliformes: Ophichthidae: Myrophinae) from the eastern Indian Ocean. *Zootaxa*, 4060(1): 56-61.
- Ho, H.-C., 2015. Description of a new species and redescription of two rare species of *Parapercis* Perciformes: Pinguipedidae) from the tropical Pacific Ocean. *Zootaxa*, 3999(2): 255-271.
- Ho, H.-C., Kawai, T. and Satria, F., 2015. Species of the anglerfish genus *Chaunax* from Indonesia, with descriptions of two new species (Lophiiformes: Chaunacidae). *Raffles Bulletin of Zoology*, 63: 301-308.
- Imamura, H., 2015. Taxonomic revision of the flathead fish genus *Platycephalus* Bloch, 1785 (Teleostei: Platycephalidae) from Australia, with description of a new species. *Zootaxa* 3904 (no. 2): 151-207.
- Kaga, T., Van Oijen, M. J. P., Kubo, Y. and Kitagawa, E., 2015. Redescription of *Ateleopus japonicus* Bleeker, 1853, a senior synonym of *Ateleopus schlegelii* van der Hoeven, 1855, *Ateleopus purpureus* Tanaka, 1915 and *Ateleopus tanabensis* Tanaka, 1918 with designation of a lectotype for *A. japonicus* and *A. schlegelii* (Ateleopodiformes: Ateleopodidae). *Zootaxa*, 4027(3): 389-407.
- 木村清志・米沢純爾・Melo, M., 2015. クロボウズギス科 *Pseudoscopelus obtusifrons* の日本からの記録. *魚類学雑誌*, 62(2): 177-182.
- Matsunuma, M. and Motomura, H., 2015. A new species of scorpionfish, *Ebosia saya* (Scorpaenidae: Pteroinae), from the western Indian Ocean and notes in fresh coloration of *Ebosia falcate*. *Ichthyological Research*, 62: 293-312.
- Matsunuma, M. and Motomura, H., 2015. *Pterois paucispinula*, a new species of lionfish (Scorpaenidae: Pteroinae) from the western Pacific Ocean. *Ichthyological Research*, 62: 327-346.
- Miyazaki, Y., Ikeda, Y. and Senou, H., 2015. The northernmost records of *Chromis notate* and *Sagamia geneionema* from Hokkaido, Japan. *Marine Biodiversity Record* (Doi: 10.1017/S1755267214001390).
- Nagao, T. and Imamura, H., 2015. *Platycephalus clavulatus* Cantor, 1849 (Teleostei: Platycephalidae), a junior synonym *Cociella punctate* (Cuvier, 1829). *Species Diversity*, 20: 129-133.

- Nakayama, N. and Endo, H., 2015. Redescription of *Nezumia infranudis* (Gilbert & Hubbs, 1920), with the first record of the species from the Eastern Indian Ocean (Actinopterygii: Gadiformes: Macrouridae). *Marine Biology Research*, 11(10): 1108-1115.
- Nakayama, N., Matsunua, M. and Endo, H., 2015. Redescription of *Coelorinchus tokiensis* (Steindachner and Döderlein, 1887) (Actinopterygii: Gadiformes: Macrouridae), with comments on its synonymy. *Ichthyological Research* (Doi: 10.1007/s10228-015-0493-4).
- Okamoto, M. and Stevenson, D. E., 2015. Records of two manefishes, *Patyberyx andriashevi* and *P. rhyton* (Teleostei: Perciformes: Caristiidae), from off the Ogasawara Islands, Japan. *Species Diversity*, 20: 13-17.
- Orr, J. W., Kai, Y. and Nakabo, T., 2015. Snailfishes of the *Careproctus rastrinus* complex (Liparidae): redescrptions of seven species in the North Pacific Ocean region, with the description of a new species from the Beaufort Sea. *Zootaxa*, 4018(3): 301-348.
- Silva, J. P. C. B. and Carvalho, M. R., 2015. Morphology and phylogenetic significance of the pectoral articular region in elasmobranchs (Chondrichthyes). *Zoological Journal of the Linnean Society*, 175(3): 525-568.
- Silva, J. P. C. B., Vaz, D. F. B. and Carvalho, M. R., 2015. Systematic implications of the anterior pectoral basals in squaliform sharks (Chondrichthyes: Elasmobranchii). *Copeia*, 103(4): 874-885.
- Tashiro, F., Hibino, Y. and Imamura, H., 2015. Description of a new species of the genus *Neenchelys* (Anguilliformes: Ophichthidae, Myrophinae) from the eastern Indian Ocean, with comments on the availability of three congeners. *Ichthyological Research* (Doi: 10.1007/s10228-015-0473-8).
- Tohkairin, A., Kai, Y., Ueda, Y., Hamatsu T., Ito M. and Nakabo, T., 2015. Morphological divergence between two color morphotypes of *Crystallichthys matsushimae* (Cottoidei: Liparidae). *Ichthyological Research*, 62: 145-155.
- Vilasri, V., Yamanaka, T., Tochino, S., Kawai, T., Ratmuangkhwang, S. and Imamura, H., 2015. Annotated checklist of marine fishes from Phuket and Ranong, Thailand. *Tropical Natural History*, 15(1): 55-68.
- Weigmann, S., Vaz, D. F. B., White, W. T., Carvalho, M. R. and Thiel, R., 2015. Distribution and comments on the morphology of *Centroscymnus owstonii* Garman, 1906 (Squaliformes: Somniosidae), with focus on its occurrence in the Indian Ocean. *Marine Biodiversity* (Doi: 10.1007/s12526-015-0413-x).
- White, W. T., Kawauchi, J., Corrigan, S., Rochel, E. and Naylor G. J. P., 2015.

Redescription of the eagle rays *Myliobatis hamlyni* Ogilby, 1911 and *M. tobijei* Bleeker, 1854 (Myliobatiformes: Myliobatidae) from the East Indo-West Pacific. *Zootaxa*, 3948(3): 521-548.

White, W. T., Last, P. R. and Baje, L., 2015. *Aetomylaeus caeruleofasciatus*, a new species of eagle ray (Myliobatiformes: Myliobatidae) from northern Australia and New Guinea. *Ichthyological Research* (Doi: 10.1007/s10228-015-0480-9).

White, W. T., Vaz, D. F. B., Ho, H.-C., Ebert, D. A., Carvalho, M. R., Corrigan, S., Rochel, E., Carvalho, M., Tanaka, S. and Naylor, G. J. P., 2015. Redescription of *Scymnodon ichiharai* Yano and Tanaka, 1984 (Squaliformes: Somniosiidae) from the western North Pacific, with comments on the definition of somniosid genera. *Ichthyological Research*, 62: 213-229.

山崎 彩・永野優季・菊地 優・百田和幸・鈴木将太・五十嵐健志・宗原弘幸, 2015. 潜水調査による下北半島沿岸域の魚類相調査報告. *Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*, 57(1/2): 1-24.

6. 古生物学コレクション

【利活用】

6-1) 主な学外からの標本利用

2015年度は、主に海外の研究者による利用と道内の機関への借用だった。海外の研究者は、恐竜化石を観察した。これは、当館の恐竜化石の充実を示唆する。当館の耐震改修のため、展示が閉鎖されており、積極的に他施設での展示を依頼した。

| | 件数 | 点数 |
|--------|----|----|
| 2015年度 | 5 | 40 |

2015年度

2015.4.8-15 米国・ペロー博物館 恐竜化石8点

2015.6 むかわ町穂別博物館 パラサウロロフス・マチカネワニ全身骨格2点

2015.6 苫小牧市美術博物館 アショロア全身骨格など20点

2015.10.26-10.31 カナダ・アルバータ大学 恐竜化石5点

2016.1.26-2.14 カナダ・アルバータ大学 恐竜化石5点

7. 岩石鉱物鉱石標本コレクション

【利活用】

7-1) 標本庫利用状況

耐震改修工事のため利用不能

【貸出標本】

2015.4.16 宮地鼓（苫小牧市美術博物館）：標本貸出

2015.5.15 宮地鼓（苫小牧市美術博物館）：標本貸出

2015.5.22 宮地鼓（苫小牧市美術博物館）：標本貸出

2015.12.1 小樽市総合博物館：標本貸出

【寄贈標本】

2015.4.1 寺西辰郎：鉱物標本 200 点

7-2) 標本が引用された主な論文

[査読付き]

Shitaoka Y., Moriwaki H., Akai F., Nakamura N., Miyoshi M. and Yamamoto J. (2016) Eruption age of Sakurajima-Satsuma tephra using thermoluminescence dating. *Bulletin of Geo-Environmental Science* 18, 29–35.

下岡順直，山本圭香，山本順司（2016）減災教育を意識した液状化現象実験観察の実践例. *地球環境研究* 18, 71–78.

田中公教，三嶋渉，高畑幸平，榊山匠，山本順司（2016）天文シミュレーターMitakaを用いたプログラム公演と大学博物館展示の連携：化石展示との連携を事例して. *地学教育*，印刷中

山本順司，高畑幸平，鳥本淳司，石橋秀巳（2015）マントル捕獲岩の流体包有物から読み取れる情報. *地学雑誌*，124, 429–443.

田中公教，岩波連，神田いずみ，山本順司，福澄孝博（2015）天体シミュレーターソフトウェア Mitaka を用いた大学博物館の新たな試み：“宇宙展示”と“考古展示”の連携. *Computer & Education*，印刷中.

三嶋渉，山本順司，在田一則，鳥本淳司，田中公教，酒井実（2015）凍結融解の発生機構を理解する実験手法の開発：1時間で10回分の風化を引き起こす. *地学教育*，68, 59–67.

[査読なし]

平野直人，油谷拓，山本順司（2016）歯舞群島と色丹島の地質資料と岩石試料の重要性. *東北アジア研究* 20, 61–73.

山本順司（2015）隠岐に火山がある不思議. 隠岐の文化財 32, 1-10.

8. 考古学分野

【利活用】

考古学資料学外利用件数および利用者数（人・日）記録

| | 件数 | 人・日数 |
|--------|----|------|
| 2015年度 | 2 | 6 |

学外からの利用のほか、標本は学内の学生・教員の研究に日常的に利用されるとともに、講義・実習・パラタクソノミスト養成講座などの学生・生涯教育にも活用されている。

8-1) 標本庫利用記録（2015.4－2016.3：学外者のみ）

2015.7.6-7.10. 服部太一（慶応大学）香深井1遺跡出土ブタ骨調査

2015.12.5. Kosintsev Pavel (Institute of Plant and Animal Ecology (Russia)) 香深井1遺跡出土ヒグマ資料調査

8-2) 資料・標本貸出（2015.4.－2016.3.）

2015.7.1-9.15. 我孫子市・鳥の博物館 骨角器4点

8-3) 収蔵資料が利用された主な論文・報告

江田真毅・天野哲也・小野裕子編 2016.『北海道大学総合博物館研究報告第8号 オホーツク文化の研究 4目梨泊遺跡』北海道大学総合博物館

9. 脊椎動物分野

【利活用】

動物骨格標本学外利用件数および利用者数（人・日）記録

| | 件数 | 人・日数 |
|--------|----|------|
| 2015年度 | 2 | 31 |

学外からの利用のほか、標本は学内の学生・教員の研究に日常的に利用されるとともに、学生教育にも活用されている。

9-1) 標本庫利用記録 (2015.4.－2016.3. : 学外者のみ)

2015.10.26., 2015.11.12. 内山幸子 (ほか計 29 名) (東海大学) 動物標本庫バックヤードツアー

9-2) 資料・標本貸出 (2015.4.－2016.3.)

2015.4.1.-16.3.31. 増田隆一 (北海道大学理学研究院) : 56 点 講義利用

2015.7.1-15.9.4. 沖田絵麻 (土井が浜遺跡・人類学ミュージアム) : 6 点 研究利用

2015.2.26-16.3.31. 山田 英佑 (総合研究大学院大学) : 50 点 研究利用

9-3) 収蔵資料が利用された主な論文・報告

江田真毅・松井章・孫国平 2016. 「田螺山遺跡における鳥類利用」『中国新石器時代における家畜・家禽の起源と、東アジアへの拡散の動物考古学的研究』松井章・菊地大樹編、23-42。

江田真毅 2016. 「鳥類」『山野貝塚総括報告書 房総半島に現存する最南部の縄文時代後・晩期の大型貝塚』袖ヶ浦市教育委員会、211-217。

Mieczyslaw Wolsan, Satoshi Suzuki, Masakazu Asahara, Masaharu Motokawa. 2015. Tooth Size Variation in Pinniped Dentitions. *PLoS ONE* 10(8): e0137100 DOI : doi:10.1371/journal.pone.0137100.

10. 学術標本データベース

現在総合博物館で構築・インターネット公開されているデータベースは、タイトル別にして 15、分野にして 7 分野である (それぞれ古生物学、鉱物・鉱床学、植物体系学、昆虫分類学、魚類分類学、考古学、その他分野横断 [=植物体系学、鉱物・鉱床学、考古学を横断])。

以下に当館で管理されているものについてタイトルを記す (北大総合博物館登録標本データベース : <http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/> の表記を踏襲し、系別表記とする)。

●地球科学系(既公開及び準備中のものを含む)

- ・化石標本 (約20,000点、平成18年再構築、HP公開中)
- ・鉱物 (北海道産新鉱物ほかタイプ標本(10点)を含む約7,500点、平成18年再構築、HP公開中)
- ・岩石 (約9,000点、理学研究院より公開中、博物館HPからの公開準備中)
- ・北海道の火山 (有珠ほか) (約 1,600 点、公開準備中)

- ・ 宇井標本（約 1,100 点、公開準備中）
- ・ 地質標本・現象のデータベース（約420点、HP公開中）
- ・ 鉍石データベース（約4,000点、HP公開準備中）
- ・ カムチャッカ金属資源データベース（約430点、平成17年9月～HP公開中）
- ・ 黒曜岩標本（吉谷コレクション）(約 1,140 点、HP 公開準備中)
- ・ 白滝遺跡出土石器(黒曜石)(約 5,300 点、HP 公開準備中)
- ・ 渡辺武男標本(約 1,385 点、HP 公開準備中)
- ・ 由井俊三標本(約 3,000 点、HP 公開準備中)

●生物系

- ・ 海藻標本データベース
- ・ 陸上植物タイプ標本データベース
- ・ エンマムシデータベース
- ・ IC タグ×昆虫標本データベース
- ・ 苫小牧研究林生命情報データベース
- ・ 魚類標本データベース
- ・ 昆虫標本データベース
- ・ 北海道大学昆虫学教室・総合博物館所属タイプ標本データベース
- ・ 中根猛彦コレクション：甲虫類タイプ標本データベース

●考古学系

- ・ 考古学資料検索システム（約 4,000 点 平成 25 年 3 月～ 公開中）

●分野横断データベース

- ・ 北大総合博物館北東ユーラシア資料統合データベース

IV. 高等教育

博物館教員が兼任あるいは担当する理学部・農学部・水産学部、理学院・農学院・水産科学院で講義・実習・特論等を担当し、担当学部・学院では卒論生・修士・博士も指導している。また全学教育の授業も担当している。平成24年度から実施されている新たな学芸員養成課程では、科目が細分化されて増えたため、博物館教員が分担する授業科目が増え、本学での学芸員資格取得のための教育に貢献をしている。以下、1項は、博物館教員が主担当となり全学対象に開講している博物館開催の授業である。2項は、学芸員養成課程に関連した授業と実習、3項は大学院共通授業科目である。4項は、博物館で全学的に展開している「ミュージアムマイスター認定コース」について紹介する。北大が目指す全人教育の一環を担うコースであり、国内の大学における博物館教育において先進的でユニークな取り組みとして評価されている。

1. 全学教育

【総合科目】

「モノ」＋「コト」＋「ヒト」＝北大総合博物館

【一般教育演習】

北大エコキャンパスの自然―植物学入門

北大エコキャンパスの自然と歴史

2. 学芸員養成課程関連授業・実習

博物館教育論

博物館資料論

博物館情報・メディア論

博物館展示論

博物館資料保存論

博物館実習事前指導、事後指導

博物館実習

函館キャンパス

2015年8月18日～21日、28日、31日 6日間

受講生：3名

3. 大学院共通授業科目

博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価

博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣

博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価

博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣

4. ミュージアムマイスター認定コース

- ・実施プログラム：40科目、プロジェクト4件、パラタクソノミスト養成講座
- ・認定コース登録者：158名
- ・マイスター認定者：前期：なし、後期：3名

【導入科目】

生物の多様性

フィールド科学への招待

アイヌ・先住民研究の現在

「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館

北大エコキャンパスの自然と人間：植物学入門

北大エコキャンパスの自然と歴史

他、2項に挙げた学芸員養成課程科目

【ステップアップ科目】

ヒグマ学入門

フィールド体験型プログラム：人間と環境科学（1）

フィールド体験型プログラム：人間と環境科学（2）

地球と大学 北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ
遺跡を探そう

学芸員から見た美術の世界

PMFの響き

美術館という現場

ヒトとは何か：進化・歴史・文化

北方人類学演習：フィールドワーク実践

水圏生物学

魚類学

ベントス学

水族館学

北方文化論特殊講義：ミュージアムのマネージメント

博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

パラタクソノミスト養成講座

【社会体験型科目】

博物館コミュニケーション特論（学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価）

博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価

博物館コミュニケーション特論（博物館における映像表現）

博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣

博物館コミュニケーション特論（ミュージアムグッズの開発と評価）

博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価

博物館コミュニケーション特論（映像制作とスノーボード）

博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣

南紀熊野の森林から地域を考える-原材料採取から商品開発まで-

土曜市民セミナーの運営 前期・後期

卒論ポスター発表会での発表

卒論ポスター発表会での運営

V. 展示活動

平成27年4月1日より、耐震改修工事のため休館

1. 常設展示

- 1階：北大歴史展示、学術テーマ展示
- 2階：学術テーマ展示「ユニバーシティ・ラボ」
- 3階：学術資料展示（地球惑星科学分野、獣医学分野、生物分類学分野）

2. 企画展示(平成27(2015)年度)

平成27(2015)年度 （プレ小展示・2回）

場所：北海道大学 ファカリティハウス「エンレイソウ」1階ギャラリー

プレ小展示Ⅰ「ランの王国」

（平成27年10月15日～平成27年11月5日）

プレ小展示Ⅱ「ランの王国」

（平成28年3月10日～平成28年3月24日）

3. 入館者数

| 年度 | 期間 | 開館日数 | 入館者数(年度) | 入館者数累計 | 1日平均 |
|------|----------------------|-------|----------|-----------|------|
| 10年度 | 11月24日～3月31日 | 77 | 3,043 | 3,043 | 40 |
| 11年度 | 4月1日～3月31日 | 243 | 9,733 | 12,776 | 40 |
| 12年度 | 4月1日～3月31日 | 241 | 8,789 | 21,565 | 36 |
| 13年度 | 4月1日～3月31日 | 242 | 15,866 | 37,431 | 66 |
| 14年度 | 4月1日～3月31日 | 251 | 28,952 | 66,383 | 115 |
| 15年度 | 4月1日～3月31日 | 289 | 42,431 | 108,814 | 147 |
| 16年度 | 4月1日～3月31日 | 302 | 43,889 | 152,703 | 145 |
| 17年度 | 4月1日～3月31日 | 303 | 75,685 | 228,388 | 250 |
| 18年度 | 4月1日～3月31日 | 303 | 73,993 | 302,381 | 244 |
| 19年度 | 4月1日～3月31日 | 302 | 89,086 | 391,467 | 295 |
| 20年度 | 4月1日～3月31日 | 300 | 62,701 | 454,168 | 209 |
| 21年度 | 4月1日～3月31日 | 303 | 69,646 | 523,814 | 230 |
| 22年度 | 4月1日～3月31日 | 302 | 104,661 | 628,475 | 347 |
| 23年度 | 4月1日～3月31日 | 304 | 105,583 | 734,058 | 347 |
| 24年度 | 4月1日～3月31日 | 303 | 97,899 | 831,957 | 323 |
| 25年度 | 4月1日～3月31日 | 301 | 123,979 | 955,936 | 412 |
| 26年度 | 4月1日～3月31日 | 302 | 107,878 | 1,063,814 | 357 |
| 27年度 | 休館 4月1日～3月31日 | 0 | 0 | 1,063,814 | — |
| 計 | | 4,668 | | | |

<休館日>

平成11年4月1日より

休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成14年4月1日より

休館日：土曜日(毎月第2土曜日は開館)、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成15年4月1日より

休館日：日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成16年4月1日より

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/28～1/3、その他臨時休館日

月別入館者数

平成27年度 休館のため、入館者数なし

<展示解説・案内>

見学団体名

年 月 日

人数

対応教員等

平成 27 年 4 月 1 日より、耐震改修工事のため休館

(平成 28 年 3 月末迄)

VI. 社会教育・普及活動

1. 博物館セミナー（平成27年度）

平成27(2015)年度（24回）

- 1 バイオミメティクス市民セミナー
「自然に学ぶ：地域づくりー滋賀での実践」 4月5日
- 2 バイオミメティクス市民セミナー
「生体にとっても近い材料 ～ゲル～」 5月2日
- 3 バイオミメティクス市民セミナー
「昆虫のすごい生活」 6月6日
- 4 環境月間関連行事
「北大エコキャンパス観察会」6月20日
- 5 バイオミメティクス市民セミナー
「フナムシから着想を得た流路の設計と応用」 7月5日
- 6 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「リシリヒナゲシとレブンアツモリソウの保全研究
ー人間はどこまで自然に手を出せるのか」 7月11日
- 7 バイオミメティクス市民セミナー
「環境とイノベーション：農工医連携によるフィールドデータサイエンス」 8月2日
- 8 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「ナスカの地上絵を鳥類形態学と動物考古学から考える」 8月8日
- 9 バイオミメティクス市民セミナー
「特許からみるバイオミメティクス」 9月5日
- 10 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「超巨大噴火に備えるには」 9月12日
- 11 バイオミメティクス市民セミナー
「生物と材料のシンフォニー：バイオマテリアルと境界科学」 10月3日
- 12 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「深海魚場開発調査で得られた魚類ーインドネシア沖インド洋ー」 10月10日
- 13 第1回博物館研究会
「Re-examining the dual roles of research and education among
natural history museums in the Philippines」 10月15日
- 14 バイオミメティクス市民セミナー
「昆虫腸内菌の生き様に学ぶ」 11月7日
- 15 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「地球深部にひそむ隕石をさぐる」 11月14日

- 16 バイオミメティクス市民セミナー
「骨粗鬆症の病態から学ぶ強い骨の構造と質」 12月5日
- 17 第2回博物館研究会
「新しいメディアを博物館で活用する体制の研究」 12月11日
- 18 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「恐竜の鳥類化 ～脳・内臓・翼の進化～」 12月12日
- 19 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「日本海は進化のゆりかごー海藻と貝形虫ー」 1月9日
- 20 バイオミメティクス市民セミナー
「人間とフジツボ」 1月11日
- 21 バイオミメティクス市民セミナー
「バイオミメティック材料の開発
：微粒子が拓く省エネルギー型ものづくり」 2月6日
- 22 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「北海道大学総合博物館所蔵：昆虫標本について」 2月13日
- 23 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座
「記憶の中の科学館ー50年前から紡がれる科学館体験ー」 3月19日
- 24 バイオミメティクス市民セミナー
「昆虫は体長より長いペニスをどう動かすのか？」 3月20日

2. 公開シンポジウム (平成27年度)

平成27(2015)年度 (1回)

- 北海道大学総合博物館シンポジウム「絶滅動物化石の最新研究 in 2016」 3月5日

3. パラタクソノミスト養成講座 (平成27年度)

平成27(2015)年度 (10回)

- 1 パラタクソノミスト養成講座「きのこ (初級)」 6月13日
- 2 パラタクソノミスト養成講座「化石 (初級)」 6月20日
- 3 パラタクソノミスト養成講座「土器 (初級)」 10月3日
- 4 パラタクソノミスト養成講座 野外採集・地質見学会 10月10～11日
- 5 パラタクソノミスト養成講座「きのこ (初級)」 10月24日
- 6 パラタクソノミスト養成講座「化石 (Jr.)」 11月7日
- 7 パラタクソノミスト養成講座「鉱床 (初級)」 12月5～6日

- 8 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」 12月19～20日
- 9 パラタクソノミスト養成講座「岩石（初級）」 1月30日
- 10 パラタクソノミスト養成講座「昆虫甲虫（上級）」 2月20～21日

4. カルチャーナイト

2004年度から、総合博物館はカルチャーナイト、札幌の夏の一夜に文化施設などを夜間開放して市民の方々に地域の文化を楽しんでいただくイベントに参加している。

2015年は、耐震改修工事による休館中のため不参加

5. ボランティア活動

1999年度から、総合博物館では標本整理や展示解説などの分野でボランティア活動を推進している。2015年度には、ハンズオンと展示改訂（地学）の2分野が加わり、16分野へと幅も広がり、登録者数も増えている。

各グループでの研修に加え、博物館の研究と教育に幅広く関心を持っていただき、ボランティアの交流を促進するため、博物館が主催してボランティア講座・交流会を開催している。

16 分野

- 植物・菌類資料に関する収蔵管理と標本作製
- 昆虫標本作製と整理
- 考古学資料の整理と動物骨格標本の作製
- 地学標本（岩石／鉱物／鉱石）の分類整理とデータベース作成
- 総合博物館メディアボランティア
- 化石標本の整理・クリーニング作業・レプリカ作り
- 北大の歴史展示に関する作業
- 展示解説
- リーフレット翻訳
- 平成遠友夜学校
- 4Dシアター運営
- チェンバロ展示の充実
- 博物館図書室の整備
- 重要文化財 札幌農学校第2農場の展示支援

ハンズオン展示室整備
展示改訂（地学）

- ・登録者数：200名（2016年3月31日現在）

- ・ボランティア講座&交流会
 - 第1回ボランティア講座&交流会（講師：中川光弘 館長）、2015年4月18日

 - 第2回ボランティア講座&交流会
「のこすの実践ーアーカイブと映像資料学」（講師：山下俊介）、2015年9月12日

6. 研究報告会

- （2015年度）北大総合博物館年次報告会
2016年4月11日 13:30-15:30「N127 多目的スペース」にて開催
研究報告会プログラム次第（進行：高橋英樹 研究部長）
1. 開会の挨拶 中川光弘 館長
 2. 表彰
 - 2-1. ミュージアムマイスター表彰
 - 2-2. ボランティア表彰
 3. 研究部報告
 - 3-1. 2015年度活動報告（高橋）
 - 3-2. リニューアルオープン後の展示予定（山本）
 4. 資料部研究員報告（1人10～15分）
 - 4-1. 菊田融
 - 4-2. 持田誠
 - 4-3. 小林孝人
 - 4-4. 下村正嗣
 5. ボランティア報告（10分）
 - 5-1. 化石グループ
 6. 閉会挨拶（中川館長）

7. 道新ぶんぶんクラブとの共催講座「エルムの杜の宝もの」

2009年度から、道新ぶんぶんクラブと総合博物館が共催し、市民向けの講座「エルムの杜の宝もの」を実施している。博物館展示と関連付けた講演、構内外の見学など多彩な内容であり、毎回多くの聴講希望者のなかから抽選で聴講者を決定している。2015年度は耐震改修工事中のため、北大構内を巡る4回の講座の開講となった。

5月16日「北大構内ツアー 建築編」

講師：池上重康（北大大学院工学研究院 助教・
総合博物館 資料部研究員・近代建築史学）

5月31日「北大構内ツアー 植物編」

講師：高橋英樹（総合博物館教授・植物体系学）

8月22日「北大構内ツアー 農場編」

講師：近藤誠司（北大大学院農学研究院 特任教授・
総合博物館 資料部研究員・畜牧体系学）

9月13日「北大構内ツアー 昆虫編」

講師：大原昌宏（総合博物館 教授・昆虫体系学）

8. 北海道大学ホームカミングデー2015

北海道大学では、2012年度から、同窓生などをキャンパスに招いて交流を深め、本学の今を知っていただく「北海道大学ホームカミングデー」を開催している。総合博物館では初年度より協力を行い、同窓生や関係者、来館者から好評をいただいた。

2015年9月26日（6回）

- ・ 中谷宇吉郎復元展示室のガイドツアー（所要時間40分）
担当者：山本順司、松枝大治（総合博物館資料部研究員）、山崎敏晴（総合博物館ボランティア）。

9. エコキャンパス観察会 2015年6月20日

環境月間関連行事として、北海道大学札幌キャンパス内において、サクシユコトニ川沿いの遺跡と植物・昆虫の観察会を6月20日におこなった。

担当者：高橋英樹、大原昌宏、江田正毅

参加者数：一般市民00名。

10. CISE ネットワーク (2015)

2014年度で「CISE (Community for Intermediation of Science Education) ネット」は、JST (独立行政法人 科学技術振興機構)の科学技術コミュニケーション推進地帯・ネットワーク形成地域型の助成が終了し、2015年度は図書館振興会からの助成金を受け活動を継続している。主に「科学系博物館・図書館の連携による実物科学教育の推進」の活動を行っている。具体的には、北海道大学の資源をもとに、札幌周辺地域の科学館や、科学系博物館、図書館などの教育施設が連携し、地域住民への実物科学教育を進めるネットワークを維持し、連携する教育施設の特性に応じた実物教育を行い、その成果をまとめ地域の知財として発信している。連携施設が協同して効果的な教育を行うため、教材プログラムの開発を進めている。

詳細は、以下のホームページから参照できる。

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/cise/>

11. 高校教育との連携

- ・藻岩高校 高大連携環境教育講座 (植物、化石、地学分野)
(2015年9月11日、18日)

VII. 各種協定締結状況(2015年度まで)

(国外)

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館 (2000年8月1日より)
2. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館 (2009年11月18日より)
3. フランス・ストラスブール動物学博物館 (2009年11月20日より)
4. ロシア・ハバロフスク州立グロデコフ博物館 (2010年4月1日より)
5. ロシア・ハバロフスク州ニコラエフスク・ナ・アムール市立博物館 (2010年4月1日より)
6. ロシア・アルセニェフ総合博物館 (2010年4月1日より)
7. ロシア・北東総合科学研究所 (マガダン) (2010年8月1日より)
8. ロシア・カムチャッカ国立工科大学 (2010年8月20日より)
9. インドネシア・Padjadjaran 大学地質学部 (2011年2月24日より)
10. ロシア・イルクーツク工科大学 (2011年6月1日より)
11. 韓国・国立生物資源研究所 (NIBR) (2012年2月9日より)
12. アメリカ合衆国テキサス州ダラス自然史博物館 (2011年8月23日より)
13. タイ王国国立科学博物館 (タイ) (2012年9月19日より)
14. 韓国地質資源研究院地質博物館 (2013年3月20日より)
15. 台湾国立海洋生物博物館 (2014年7月29日より)
16. 台湾国立東華大學海洋科学学院 (2014年7月29日より)
17. モンゴル科学アカデミー古生物学・地学研究所 (2015年5月21日より)

(国内)

1. 神流町恐竜センター (2013年6月1日より)
2. むかわ町 (2014年9月1日より)
3. 北海道立北方民族博物館 (2015年3月24日より)

VIII. 刊行物等(2015年度)

- ・ Bulletin of the Hokkaido University Museum (北大総合博物館研究報告 第8号)
『オホーツク文化の研究 4 目梨泊遺跡(1)』(2016年3月)

第2部 博物館教員の活動記録

高橋英樹

TAKAHASHI Hideki

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

1. 樺太・千島産維管束植物の分類地理学的研究

植物の「学名」は世界共通語と思われているが、現実には国の違いにより同じ植物に対して異なる学名が使われていることも多い。このような混乱を収めるため北東ユーラシア、特に樺太・千島地域から収集された植物標本を精査し、植物フロアの作成・学名の整理を行っている。

2. 北海道産希少植物の分類学・保全生物学的研究

北海道の希少植物や絶滅危惧植物のリストは整理されつつあるが、分類学的な問題が解決されていないものや保全生物学的な情報が不足している種類も多い。北海道において保全上重要な希少植物（レブンアツモリソウ・リシリヒナゲシ）についての分類学的研究を行っている。

3. 北方四島、サハリン地域における外来植物の現状調査

希少植物の保全とともに、自然生態系への外来植物の侵入が保全生物学における大きな課題となっている。特に北海道に隣接する、北方四島・サハリンで現地調査を行い、生態系に与える影響評価を行っている。

4. 植物標本の整理・分類学研究・分類学史への貢献

北大総合博物館陸上植物標本庫（SAPS）の整理・データベース化を進め、北方地域における植物分類学研究の基礎作りに貢献している。またタイプステータスの確定や植物調査研究史の解明を行うことで、植物標本の学術的価値・文化的価値の向上・再評価を進めている。

5. 花粉形態の体系学的・進化的意義

ツツジ科における花粉形態や形態形成過程を電子顕微鏡レベルで解明し、分類体系との整合性を検討し、形態形質の進化的意義を解明する。バングラデシユ農科大学の Sarwar 教授との共同研究。

○2015年の研究・活動業績

<原著論文> (3件)

1. Sugiura, N. and H. Takahashi (2015) Pollination of purplish pink-flowered *Cypripedium macranthos* (Orchidaceae), which thrives in a cream-flowered *C. macranthos* var. *rebunense* habitat: the same pollinator, but different fruit-set ratios. *Pl. Sp. Biol.* **30**: 225-230.
2. A.K.M. Golam Sarwar and H. Takahashi (2015) Pollen development in *Enkianthus perulatus* (Miq.) C.K.Schneid. (Ericaceae, Enkianthoideae). *Jpn. J. Palynol.* **61**: 1-9.
3. Sato, H., Sato, K. and H. Takahashi (2015) Variation of hairiness of leaf sheaths of *Calamagrostis gigas* (Poaceae). *J. Jpn. Bot.* **90**: 386-398.

<著書・図録・目録等> (2件)

1. 高橋英樹: 『千島列島の植物』, 509pp. 北海道大学出版会, 札幌. 2015.2.27.
2. 高橋英樹 (分担執筆): 『レッドデータプランツ』 (矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳監修, 永田芳男写真), 782pp. 山と溪谷社, 東京. 2015.3.15.

<総説・解説・報告等> (2件)

1. 高橋英樹: 千島列島のバラ科あれこれ. *北方山草* **32**: 7-14. 2015. 3.
2. 高橋英樹: 伊藤浩司博士 (1930-2014). *植物研究雑誌* **90**: 289-290. 2015. 8.

<学会活動> (5件)

日本植物分類学会: 絶滅危惧植物専門第一委員会委員 (平成 26~27 年度)・学会誌 (英文「Acta Phytotax. Geobot.」・和文「分類」) 編集委員 (平成 26~27 年度)

日本花粉学会評議員 (2015~2017 年度)

日本科学者会議北海道支部常任幹事 (平成 26~27 年度)

「すげの会」評議委員

Botanica Pacifica, Journal of Plant Science and Conservation (Editorial Council Member)

<学会発表等> (0件)

<一般講演・セミナー発表> (1件)

Takahashi, H. 「The Kuril Islands and Sakhalin as migration routes for boreal plants」. International Conference dedicated to the 20th Anniversary of CNEAS, Tohoku

University. Sendai, Dec. 5, 2015.

<教育活動>

学位論文主査・副査：

- ・ 農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当：平成 27 年度（修士論文指導副査 2 名、博士論文指導主査 1 名）

指導学生：

- ・ 教育（農学部生物資源科学科・農学院環境資源学専攻 指導学生数）
平成 27 年度 学部 0 名、学院 0 名

授業等：(15 件)

- 全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」（担当）
- 全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパスの自然－植物学入門」（担当）
- 全学教育 総合科目「生物の多様性」（分担）
- 全学教育 総合科目「北大総合博物館で学ぼう－ヒグマ学入門」（分担）
- 全学教育 総合科目「北大博物館で学ぶ「モノ」「コト」「ヒト」」（分担）
- 農学部 「植物分類・生態学」（分担）
- 農学部 「生物資源科学演習」（分担）
- 農学部 「生物資源科学科卒業論文」（分担）
- 大学院農学院 「生物体系学特論」（分担）
- 大学院農学院 「農学院環境資源学演習 I、II」（分担）
- 大学院農学院 「農学院環境資源学研究 I、II」（分担）
- 大学院環境科学院 「多様性生物学基礎論」（分担）
- 大学院共通授業 「博物館学特別講義 I（学術標本・資料学）」（担当）
- 学芸員養成課程授業 「博物館情報・メディア論」（分担）
- 学芸員養成課程授業 「学芸員実習（館園実習）」（分担）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等（5 件）

- 総合博物館運営委員会委員（1999-現在）
- 展示専門委員会委員（1999-現在）
- 札幌農学校第二農場の一般公開に関する専門委員会委員（2011-現在）
- 学術標本検討専門委員会委員（1999-現在）
- 総合博物館点検評価委員会委員

博物館教育（2 件）

- 北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会（野外観察会）（開催担当・分担）

2015年6月20日)

藻岩高校生徒高大連携受け入れ (2015年9月11日)

セミナー・シンポジウム開催 (0件)

博物館企画展示 (0件)

<学内各種委員> (4件)

生態環境 TF 委員 (2010年度-)

歴史的資産活用 TF 委員 (2010年度-)

埋蔵文化財調査センター運営委員会委員 (2009年度-)

北大学生サークル YH クラブ顧問教員(2001年度-)

<社会貢献> (7件)

北海道希少野生動植物保護対策検討委員会植物専門部会委員

北海道外来種対策検討委員会委員

希少野生動植物種保存推進員 (環境省 (庁)) (2000-現在)

環境省絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会植物 I 分科会委員
(2009-現在)

鉄道・運輸機構「北海道新幹線環境影響事後調査アドバイザー」(2008-現在)

国際自然保護連合日本植物専門家グループ委員 IUCN Japanese Plants
Specialist Group member (2001-現在)

市民植物愛好団体「北方山草会」会長 (2013-現在)

<外部資金> (0件)

大原昌宏

ÔHARA Masahiro

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

1. 海浜性甲虫群集の分類と生物地理学

東アジアと北米西海岸の海浜性甲虫（エンマムシ科、ガムシ科、ゴミムシダマシ科、ゾウムシ科など）の分類学的研究を行い、アジア・北米間の海浜性甲虫類の群集の種構成差異を明らかにし、両地域間の生物地理学的な分布の成り立ちと種間・属間系統との関係を検討した。科研費（分担）に関わる研究。

2. 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ（昆虫綱、鞘翅目）の分類学・生物地理学的研究

日本から千島、樺太、朝鮮半島にかけて、エンマムシ科（Histeridae）と陸生のガムシ科（Hydrophilidae）について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。

3. タイプ標本データベース作成

昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行った。

4. 博物館におけるバイオミメティクス研究

動植物の持つ能力や形・機能などの特性を把握し、そこからヒントを得て人工的に設計・合成・製造する「生物規範工学」と協力し、博物館に収蔵される膨大な生物標本の利活用を探る先駆的なデータベース開発を行った。

○2015年度の研究・活動業績

<原著論文>（3件）

Ôhara, M., 2015. An new record of *Pachylister ceylanus pygidialis* (Coleoptera, Histeridae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 5(2): 311–312.

Ôhara, M., 2015. Records of Korean histerid beetles (Coleoptera) from the collection of the Osaka Natural History Museum, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 5(2): 313–314.

Kawauchiya, R., & M. Ôhara, 2015. New records of *Phaleromela subhumeralis* and *Emypsara riederii* (Coleoptera, Tenebrionide) from some islands of the Kuril

archipelago. Elytra, Tokyo, New Series, 5(2): 395–401.

<著書・図録・目録等> (2件)

大原昌宏, 2016. 付録 動物分類表 (11). 生20(860) p. 国立天文台編, 理科年表、平成28年、第89冊. 丸善出版 (分担監修)

大原昌宏・小林憲生・稲荷尚記, 2016. 第15章 海辺にすむ甲虫類は今どうなっているのか. pp. 111-117. 日本生態学会東北地区会 (編) 『生態学が語る東日本大震災 ―自然界に何が起きたのか―』, 文一総合出版. 191 pp. (分担執筆).

<総説・解説・報告等> (4件)

大原昌宏, 2015. 生物標本と分類学. 学術の動向, 20(5): 12-14.

大原昌宏, 2015. 日本と北米海岸の海浜性昆虫の共通性と差異. モーリー, 39: 10-13.

大原昌宏, 2015. 北海道大学総合博物館の展示の変遷 ―展示というメディアを大学に根づかせる―. Museo Academia, 大学博物館等協議会ニューズレター, (17): 7-9.

大原昌宏, 2016. エンマムシ分類学と博物館. 北海道大学総合博物館ニュース, 32: 4.

<学会活動> (3件)

日本昆虫学会: 評議員; 和文誌編集委員長; 自然保護委員会委員; 日本産昆虫カタログ編纂委員会委員

日本甲虫学会: 編集委員長; 評議員

北海道自然史研究会: 副会長

<学会発表等> (8件)

大原昌宏, 2015. 「新材料の宝庫 ―博物館生物標本から”倣う”仕組みを取り出す」 日本化学会第95春季年会 ATPシンポジウム「倣う-バイオミメティクスと新材料」. [日本大学理工学部船橋キャンパス]. 2015年3月26日 [招待講演]. (前年度分、追加)

Ôhara, M., Suzuki, M., Sakuma, D. & S. Ishida, S., 2015. Experiences with salvage and restration of natural history collections damaged by earthquakes and subsequent tsunami in East Japan, 2011, Part II. SPNHC (Society for the preservation of natural history collections), 30th annual meeting. [The Florida Museum of Natural History, Gainesville,

- Florida, USA]. 2015, May 20th.
- Sakuma, D., Ôhara, M., Suzuki, M. & S. Ishida, S., 2015. Role of off-site museums for restoration -- Experiences with salvage and restration of natural history collections damaged by earthquakes and subsequent tsunami in East Japan, 2011. SPNHC (Society for the preservation of natural history collections), 30th annual meeting. [The Florida Museum of Natural History, Gainesville, Florida, USA]. 2015, May 20th. Poster session.
- 菊田融・小林快次・大原昌宏, 2015. 「地域図書館と連携した自然史系博物館の資料運用システムの構築について」 日本社会教育学会第39回東北・北海道研究集会. [恵庭市民会館]. 2015年5月31日.
- 大原昌宏, 2015. 「大学標本に見る文化誌 一札幌農学校と自然史標本」 シンポジウム「標本から見える文化誌」生き物文化誌学会第13回学術大会 東京大会. [中央大学理工学部]. 2015年6月27日[招待講演].
- 川内谷亮太・大原昌宏・稲荷尚記・小林憲生, 2015. 「北日本、千島列島、及びサハリンにおける海浜性ゴミムシダマシ類の地理的分布について」 日本昆虫学会第75会大会. [九州大学箱崎キャンパス]. 2015年9月19日.
- 舘田開・大原昌宏, 2016. 北海道大学総合博物館所蔵の鱗翅目昆虫標本のデータベース化および種構成の分析 (シャクガ科). 2015年度 日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催支部大会[北海道大学農学部]. 2016年1月19日.
- 川内谷亮太・大原昌宏, 2016. サハリンおよび千島列島における海浜性ゴミムシダマシ類の地理的分布について. 2015年度 日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催支部大会[北海道大学農学部]. 2016年1月19日.

<一般講演・セミナー発表> (7件)

- 大原昌宏, 2015. 「北海道大学総合博物館の標本資料データベース構築、多すぎる問題点 一昆虫コレクションを例として」 シンポジウム「大学からの自然史情報構築・発信の現状と問題点」第25回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会. 主催：国立科学博物館、共催：NPO法人西日本自然史博物館ネットワーク. [国立科学博物館上野本館]. 2015年8月31日[招待講演].
- 大原昌宏, 2015. 「画像から見た生物の機能 バイオミメティクス研究のシーズとして」 一般社団法人 ナノテクノロジービジネス推進協議会・NBCIテクノロジー委員会バイオミメティクス分科会. [東京YWCA会館]. 2015年10月27日.
- 大原昌宏, 2015. 「ガラス・コレクションの魅力と楽しみ」. ガラス瓶からみ

る昭和のくらし ー大原教授の不思議なコレクションー (小樽市総合博物館・運河館トピック展#3). ギャラリートーク. [小樽市総合博物館運河館]. 2015年11月14日. [招待講演].

Ôhara, M., 2015. History, Quality and Activities: On the Natural History Colleciton of the Hokkaido University Museum. 2015 University Museums Symposium on "Museum in Everyday Life". [Agricultural Exhibition Hall, kawai kaNational Taiwan University, Taiwan]. 2015, Nov. 20th. Invitation Speech [Invitation].

大原昌宏、2016. バイオミメティクス (生物模倣技術) が今スゴイ. おもしろ話がいっぱい 生トークステージ. CISEサイエンス・フェスティバル2016 in チ・カ・ホ ～生きものたちの北海道～. 主催: CISEネットワーク、北海道セイヨウオオマルハナバチ対策推進協議会 [チカホ札幌駅前通地下歩行空間]. 2016年1月23日. [招待講演].

大原昌宏、2016. 北海道大学総合博物館所蔵 ー昆虫標本についてー. 北海道大学総合博物館主催 土曜市民セミナー・道民カレッジ連携講座. [北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟]. 2016年2月13日. [招待講演].

大原昌宏、2016. バイオミメティクス研究と博物館. 広島大学東アジア拠点広島コンソーシアムによるGSC事業 異分野融合シンポジウム. [広島大学東千田キャンパス]. 2016年3月20日. [招待講演].

<教育活動>

学位論文主査・副査:

・農学部 生物資源学科 生物生態・体系学講座担当:平成27年度 (卒業論指導2名)

・農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当:平成27年度 (修士論文指導主査1名、副査1名、博士論文指導副査1名)

指導学生・授業等:

・教育 (各学年の学部・研究科指導学生数)

2015年 学部2名、研究科1名 (修士1名) (農学研究科、兼任)

授業等: (9件)

全学教育 複合科目「生物の多様性」 (分担) (2015)

全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」 (分担) (2015)

大学院共通科目「新自然史科学特別講義～地球と生命の自然史」(分担) (2015)

大学院地球環境科学 「多様性生物学基礎論I」 (分担) (2015)

大学院農学研究科 「生物体系学特論」 (分担) (2015)

大学院共通科目授業 「博物館学特別講義（学術標本・資料学）」（分担）
（2015）

学芸員養成課程授業「博物館学芸員実習指導」（2015）

学芸員養成課程授業「博物館実習事前指導」（2015）

学芸員養成課程授業「博物館資料保存論」（2015）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等（5件）

総合博物館運営委員会委員（2000.4-現在）、総合博物館点検評価委員会委員（2000.4-現在）、学術標本検討専門委員会委員（2000.4-現在）、企画展示専門委員会委員（2000.4-現在）、札幌農学校第二農場の一般公開に関する専門委員会委員（2014-現在）

博物館教育（講座2件）

パラタクソノミスト養成講座 昆虫（初級）（2015年1回）

パラタクソノミスト養成講座 昆虫コウチュウ目（上級）（2015年1回）

セミナー・シンポジウム開催（企画、運営）：

2015年度（セミナー12件）

(1) バイオミメティクス・市民セミナー（全6回：40-45）．北海道大学総合博物館，バイオミメティクス研究会 共催[北海道大学学術交流会館、クラーク会館、紀伊国屋書店札幌本店]. 2015年4月5日，5月2日，6月6日，7月5日，8月2日，9月5日[企画、総合司会]

(2) バイオミメティクス・市民セミナー（全6回：46-51）．北海道大学総合博物館，高分子学会バイオミメティクス研究会 共催[北海道大学人文・社会学総合教育研究棟、学術交流会館]. 2015年10月3日，11月7日，12月5日，2016年1月11日，2月6日，3月20日[企画、総合司会]

博物館企画展示（2件）

企画展示名：「ウキウキ昆虫ランド2015 ～北大総合博物館 in 新千歳空港」2015年度（協力）、会場：新千歳空港国内線ターミナルビル3階 イベントホール翔 主催：北海道空港株式会社、期間：2015年7月25日から8月9日

企画展示名：「世界の大昆虫展」2015年度（協力）、会場：エコリン村 主催：エコリン村、期間：2015年7月25日から8月23日

<学内各種委員> (1件)

生態環境タスクフォース委員 (平成27年度)

<社会貢献> (11件)

1. 北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会 委員 (平成27年度)
3. 北海道文化財保護審議会 委員 (平成27年度)
4. 札幌市次世代型博物館計画検討委員会 委員 (平成27年度)
5. 北海道新聞野生生物基金 評議員 (平成27年度)
6. 北海道新聞野生生物基金 「モーリー」編集委員 (平成27年度)
7. 小樽市総合博物館協議会委員 (平成27年度)
8. 小樽市文化財審議会 委員 (平成27年度)
9. ほっかいどう学検定編纂委員 (平成27年度)
10. GBIF日本ノード運営委員会 副委員長 (平成27年度)
11. 北海道新聞社エコ大賞 審査委員 (平成27年度)
12. 筑波大学菅平高原実験センター 外部評価委員・委員長 (平成27年度)

<外部資金> (2件)

【分担】小林憲生 (代表：埼玉県立大学)：科学研究費「津波による移動・分散が生物多様性を促進する可能性の検証」(2013–2015)平成25年度–平成27年度

【分担】馬渡駿介 (代表：北海道大学)：科学研究費「自然史財」認定・登録システムの研究」(2013–2015)平成25年度–平成27年度

阿部剛史

ABE Tsuyoshi

資料基礎研究系 講師

○研究内容の概要

1. 紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究

広義ソゾ属 (*Chondrophyucus*, *Laurencia*, *Laurenciella*, *Osmundea*, *Palisada*, *Yuzurua*) の系統分類学的研究を、形態形質に加えて分子系統、培養実験、成分分類学的手法を用いて進めている。また、ウラソゾの種内分化 (ケミカルレース) における個体群構造について、分子系統学的手法を用いて解明を進めめた。

2. 北方コンブ類の系統分類学的研究

資料部との共同研究として、サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。

3. 日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究

上記の2群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。

4. 日本海における寒冷適応進化・多様化に関する共同研究

日本海をはじめとする縁海で、氷期に分断された海域で寒冷適応化・種分化が生じ、次の間氷期に北方の寒冷海域に進出するという「日本海多様化工場説」を、神谷隆宏教授 (金沢大) が貝形虫の研究から提唱した。この説を海藻類において検証する共同研究をおこなっている。

5. 標本に含まれる放射性同位体に着目した共同研究

数十年から百年以上前に採集された海藻標本が多数収蔵されている当館の特徴を活かし、磯焼け現象が見られる前の時代における窒素源の推定や、核実験以前の本来の沃素同位体比の推定など、分類学以外の分野に海藻標本を活用する共同研究をおこなっている。

○2015年の研究・活動業績

<原著論文> (1件)

Yaegashi, K., Yamagishi, Y., Uwai, S., Abe, T., Santiañez, W.J.E. & Kogame, K. 2015.
Two species of the genus *Acinetospora* (Ectocarpales, Phaeophyceae) from Japan:

A. filamentosa comb. nov. and *A. asiatica* sp. nov. *Botanica Marina* **58**(5): 331-343.

<学会活動> (4件)

国際藻類学会
日本藻類学会
北海道海洋生物科学研究会
北海道植物学会

<学会発表等> (1件)

○Suttikarn Sutti・Masaya Tani・Yukimasa Yamagishi・Tuyoshi Abe・Kazuhiro Kogame, 2016. *Chondria tenuissima* in Japan: Is it misidentified as *Chondria tenuissima* (Rhodomelaceae, Rhodophyta)? 日本藻類学会第40回大会 [日本歯科大学]. 2016年3月18-20日.

<一般講演・セミナー発表> (2件)

四ツ倉典滋・傳法隆・阿部剛史・勝山吉徳, 2015. ワクワク★ドキドキ サイエンス ―磯に生息する海藻や生物、水質を調べてみよう！―. 様似町教育委員会 [様似町漁村センター・エンルム海岸]. 2015年7月20日.
四ツ倉典滋・傳法隆・阿部剛史, 2015. 海の森の調査隊～おしよりの“こんぶ”を守るには！？～. 日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス [北海道大学忍路臨海実験所]. 2015年7月25日.

<教育活動>

学位論文主査・副査:

・理学院自然史科学専攻多様性生物学講座: 修士論文指導副査1名

指導学生・授業等:

・教育 (各学年の学部・研究科指導学生数)

学部0名、学院2名 (修士0名、博士2名) (理学院、兼任)

授業等: (14件)

全学教育「環境と人間 北大総合博物館で学ぶ「モノ」「コト」「ヒト」」
(分担)

全学教育「環境と人間 生物の多様性」 (分担)

全学教育「自然科学実験」 (分担)

理学部「生物多様性基礎論」 (分担)

理学部「生物多様性概論」(分担)
理学部「多様性生物学」(分担)
理学部「多様性生物学I」(分担)
理学部「臨海実習II」(分担)
理学部「生物学特別講義V」(集中講義世話教員)
大学院共通科目「博物館学特別講義I 学術標本・資料学」(分担)
大学院理学院「多様性生物学特論II」(分担)
大学院理学院「多様性生物学研究法」(分担)
学芸員養成過程授業「博物館資料論」(分担)
学芸員養成過程授業「博物館学芸員実習指導」(分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (3件)

総合博物館運営委員会委員、展示専門委員会委員、学術標本検討専門委員会委員

博物館教育 (0件)

シンポジウム開催(企画、運営) : (0件)

博物館企画展示 (0件)

<学内各種委員> (3件)

環境負荷低減推進員

野外活動安全マニュアル検討WG委員 (北海道大学安全衛生本部, 2015, 安全な野外活動のための基礎知識, 79 pp, 分担執筆)

理学部環境安全衛生委員会委員

<社会貢献> (1件)

希少野生動植物種保存推進員(環境省)(2012.7~現在)

<外部資金> (2件)

【分担】四ツ倉典滋(代表:北海道大学):科学研究費 基盤研究(B) 25304010
「北太平洋西部沿岸におけるコンブ類の種多様性とその由来の解明」(2013-2016)平成25年度-平成28年度

【分担】神谷隆宏(代表:金沢大学):科学研究費 基盤研究(B) 26304010「新

たな生物進化モデルの展開：日本海多様化工場説とその世界的インパクト」
(2014–2017)平成26年度–平成29年度

河合俊郎

KAWAI Toshio

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. キホウボウ科魚類の系統分類学的研究

深海性魚類の一群全てを包括的に形態形質および分子形質の両面から研究し、種多様性とその形成史を総合的に明らかにする試みである。深海底という特殊かつ安定した環境において、生物はどのように進化・適応してきたのかという研究を進める上で、世界中の深海底に生息する代表的な一群であるキホウボウ科は最も有効な研究対象種のひとつである。

2. 北海道周辺海域に出現する魚類の分類学・生物地理学的研究

北海道周辺に出現する魚類を分類し、北海道周辺の魚類相を解明することを目的とする。北海道は南からの暖流である黒潮と対馬暖流、北からの寒流である親潮とリマン海流によって、複雑な水域を形成するため寒海性から熱帯性までの多様な魚類が生息可能となっている。

3. 東部インド洋アンダマン海周辺に出現する魚類の分類学的研究

東部インド洋に位置するアンダマン海からマラッカ海峡にかけて出現する魚類を分類し、インド洋と太平洋の熱帯域をつなぐ魚類相の特徴を明らかにすることを目的とする。

○2015年の研究・活動業績

<原著論文> (2件)

V. Vilasri, T. Yamanaka, S. Tochino, T. Kawai, S. Ratmuangkhwang and H. Imamura. 2015. Annotated checklist of marine fishes from Phuket and Ranong, Thailand. *Tropical Natural History*, 15 (1): 55-68.

H.-C. Ho, T. Kawai and F. Satria. 2015. Species of the anglerfish genus *Chaunax* from Indonesia, with descriptions of two new species (Lophiiformes: Chaunacidae). *Raffles Bulletin of Zoology*, 63: 301-308.

<著書・図録・目録・総説・解説・報告等> (1件)

篠原現人・松浦啓一・河合俊郎. 2016. 魚類のかたちと生息環境. Pp.60-73. 篠原現人・野村周平 (編). 生物の形や能力を利用する学問 バイオミメティクス. 東海大学出版部, 平塚.

<学会活動> (3件)

日本魚類学会、日本動物分類学会、日本生物地理学会

<学会発表等> (2件)

河合俊郎, 2015. 「フローレス海から採集されたキホウボウ科キホウボウ属の1未記載種」. 第48回日本魚類学会年会[近畿大学農学部] 2015年9月4日.
○大橋慎平・永野優季・河合俊郎・今村央・矢部衛, 2015. 「北海道大学総合博物館水産科学館・水産生物標本館の改築と収蔵される魚類標本 (HUM Z) の紹介」. 第48回日本魚類学会年会[近畿大学農学部]2015年9月4日.

<一般講演・セミナー発表> (0件)

河合俊郎, 2015. 「深海漁場開発調査で得られた魚類～インドネシア沖インド洋～」. 土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座[北海道大学札幌キャンパス] 2015年10月10日.

<教育活動>

学位論文主査・副査:

- ・水産科学院 海洋生物資源科学専攻: 平成27年度 (修士論文指導副査3名)

指導学生・授業等:

- ・教育 (各学年の学部・研究科指導学生数)

学部4年生5名 (水産学部、兼担)、学院18名 (修士12名、博士3名) (水産科学院、担当)

授業等: (10件)

水産学部「水圏生物学」(分担)

水産学部海洋生物科学科「水圏生物科学実習」(分担)

水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学論文講読」(分担)

水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学基礎実験」(分担)

水産学部海洋生物科学科「海洋生物学実験」(分担)

水産学部海洋生物科学科「水族館学」(責任)

水産学部海洋生物科学科「水産科学英語II」(分担)

学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習 (総合博物館)」(分担)

学芸員養成過程授業「博物館実習館務実習 (水産科学館)」(責任)

学芸員養成過程授業「博物館実習事前事後指導」(分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (2件)

水産科学館専門委員会委員 (1999.4-現在)、学術標本検討専門委員会委員 (1999.4-現在)

博物館教育 (0件)

なし

シンポジウム開催 (企画、運営) :

なし

博物館企画展示 1件

企画展示名：「北海道とタイの海産生物と水中写真」 (担当)、会場：タイ王国ノンタブリ県IMPACT展示会議場、期間：2015年11月14日から25日

<学内各種委員> (0件)

なし

<社会貢献> (4件)

日本魚類学会庶務幹事 (2013.1-2015.12)

日本魚類学会 50周年記念事業実行委員 (2015.4-現在)

日本魚類学会評議員 (2016.1-現在)

日本魚類学会電子情報委員 (2016.1-現在)

<外部資金> (0件)

なし

小林快次

KOBAYASHI Yoshitsugu

資料開発研究系 准教授

大阪大学総合学術博物館 招聘准教授

Perot Museum of Nature and Science (Texas, USA), Associate Research

○研究内容の概要

主に恐竜とワニを中心に、絶滅動物の進化や生態復元の研究を行っている。フィールドは世界に渡り、日本だけではなく、モンゴル、中国、アメリカ（特にアラスカ）、カナダといった環太平洋域で、発掘や研究を活発に行っている。

研究の内容は、主に以下の6点である。

①生態復元からみた、恐竜類から鳥類への進化

鳥類が中生代の恐竜類からどのようにして“鳥類化”したかが、現在の議論の的になっている。内温性は、どこまでさかのぼれるのか？脳の作りはいつから“鳥類タイプ”になっていたのか？食性がどのように変化し、原始的な鳥類は生態系においてどの位置に立たされていたのか？など、化石から復元できる生態から、恐竜の“鳥類化”のプロセスを探っている。

②アジア（モンゴルと中国）と北米（カナダ）における恐竜類の多様性

世界に恐竜王国は6カ国に渡る（中国、モンゴル、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、イギリス）。中国とモンゴルは、これまでも多くの化石を産出しているが、現在も未開拓の地が多く、恐竜時代において恐竜の多様性がどの程度だったのかは不明な部分が多い。比較的研究が進んでいて、同時代で同じ古緯度のカナダ・アルバータ州の恐竜と比較することで、大陸間で恐竜の多様性の相違を追求している。

③北極圏での恐竜の多様性と適応能力

恐竜は、全大陸を支配した大型陸棲動物である。その分布域は、極圏にまで及ぶ。アラスカ州の恐竜研究を行い、当時の環境や生態系の復元、アジア-北米間における恐竜の移動の時期と種類を解明、恐竜やその他の動物の内温性の有無といったことを追求している。

④爬虫類（恐竜を含む）における子育ての進化

爬虫類は一般的に卵生であるが、何度も胎生を収斂進化させている。進化型の主竜類（ワニ類、鳥類を含む恐竜類）は比較的複雑な卵の構造を持っており、胎生を行った形跡はないが、原始的なものには胎生のものもいた。また、鳥類に近い恐竜類は、雄が子育てをすることが知られているが、その特徴が爬虫類の進化の中でどこまでさかのぼれるのかは、未だ議論がある。原始的な主竜類を研究対象とすることで、卵生・胎生や雌・雄の子育ての進化が、いつどのように起こったのかを追求している。

⑤マレーガビアルとマチカネワニの関係から見られる、ワニの進化

1964年、大阪大学豊中キャンパス内から、全長6メートルを超える巨大ワニの化石が発見された。このワニは、現在のマレーガビアルの近縁種であることが、私の研究でわかっている。マレーガビアルは、ワニの現生種の系統関係を解く鍵であり、未だに議論が続いている。化石種を含むワニで最も近縁なものがマチカネワニであり、マチカネワニとマレーガビアルの研究によって、ワニ類の系統解析の研究が進むと考えられている。

⑥むかわ町穂別地区から発見された植物食恐竜

北海道総合博物館とむかわ町穂別博物館との共同で、2013年と2014年に植物食恐竜ハドロサウルス科の全身骨格が発掘された。本邦としては、最も完全な全身骨格であり、白亜紀末の恐竜としては最も保存の良いものであり、日本古生物学の歴史に残る発見となった。現在、クリーニング中であり、処理ができた標本から研究を進めている。

○2015年の研究・活動業績

<原著論文> (4件)

1. Chiba, K., Ryan, M. J., Braman, D. R., Eberth, D. A., Scott, E. E., Brown, C. M., **Kobayashi, Y.**, and Evans, D. C. 2015. Taphonomy of a monodominant *Centrosaurus apertus* (Dinosauria: Ceratopsia) bonebed from the Upper Oldman Formation of southeastern Alberta. *Palaios*: 655-667. doi: 10.2110/palo.2014.084
2. Lü, J., Pu, H., **Kobayashi, Y.**, Xu, L., Chang, H., Shang, Y., Liu, D., Lee, Y., Kundrát, M., and Shen, C. 2015. A new oviraptorid dinosaur (Dinosauria: Oviraptorosauria) from the Late Cretaceous of southern China and its paleobiogeographical implications. *Scientific Reports* **5**, 11490; doi: 10.1038/srep11490

3. Chiba, K., Fiorillo, A., Jacobs, L., Kimura, Y., **Kobayashi, Y.**, Kohno, N., Nishida, Y., Polcyn, M., and Tanaka, K. 2016. A new desmostylian mammal from Unalaska (USA) and the robust Sanjussen jaw from Hokkaido (Japan), with comments on feeding in derived desmostylids. *Historical Biology*, 28: 289-303. DOI:10.1080/08912963.2015.1046718
4. Jacobs, L., Flynn, L., Kimura, Y., **Kobayashi, Y.**, Wang, X. Qiu, Z., Jin, C., Zhang, Y., Taylor, L., Kohno, N., and Winkler, A. J. 2016. Contributions to vertebrate palaeontology in honour of Yukimitsu Tomida. *Historical Biology*, 28: 1-7. DOI:10.1080/08912963.2015.1049839

<著書・図録・目録・総説・解説・報告等> (23件)

1. 小林快次, 2015. 恐竜は滅んでいない, 118pp, 角川新書.
2. 小林快次 (協力), 2015, 日本のエクスプローラー, ナショナルジオグラフィック日本版, 4月号.
3. 小林快次 (協力), 2015. Dinographics ティラノサウルス. 4月号, p130-135, ニュートンプレス.
4. 小林快次 (協力), 2015. ティラノサウルス: 血管や細胞まで発見!?最新きょ研究で覆るイメージ. 11月号, p130-135, ニュートンプレス.
5. 小林快次 (監修) 土屋健・桃田さとみ (著), 2015. 恐竜白亜紀アドベンチャー, 176pp, 学研プラス. 小林快次 (監修) 土屋健 (著), 2015. ティラノサウルスはすごい, 223pp, 文春新書.
6. 小林快次 (監修) 高橋拓真 (著), 2015. 恐竜のふしぎ (1) 恐竜の誕生と大進化!の巻, 144pp, 講談社.
7. 小林快次 (監修) 高橋拓真 (著), 2015. 恐竜のふしぎ (2) 恐竜の栄光と大絶滅!の巻, 144pp, 講談社.
8. 小林快次 (一部監修), 2015. 「NHK子ども科学電話相談 クイズでなるほど! ふしぎなんでも百科」. 126 pp. NHK出版協会.
9. 小林快次, 2015. 「羽毛」つながる鳥と恐竜: 羽毛恐竜の発見と恐竜から鳥への新しい進化の道すじ. 8月号, p4-6, バーダーBirder.
10. 小林快次, 2015. 恐竜は「恐竜研究者に向いている人」, 4月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
11. 小林快次, 2015. 恐竜の「恐竜を研究する意味」, 5月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
12. 小林快次, 2015. 恐竜の「2015年の調査がスタート! fromカナダ」, 6月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
13. 小林快次, 2015. 恐竜の「間違った仮説」, 7月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.

14. 小林快次, 2015. 恐竜の「アラスカで待っていた、美しい花と足跡化石」, 8月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
15. 小林快次, 2015. 恐竜の「大発見は、最終日の夕方に」, 9月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
16. 小林快次, 2015. 恐竜の「ゴビ砂漠でテントを張るべき場所」, 11月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
17. 小林快次, 2016. 恐竜の「美しい頭骨を掘りたがらない理由」, 1月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
18. 小林快次, 2016. 恐竜の「北米の恐竜とアジアの恐竜」, 3月, 日本のエクスプローラー, Webナショナルジオグラフィック, ナショナルジオグラフィックジャパン.
19. 小林快次, 2015. 骨標本は語る: ウサギ〜伸び続ける大きな前歯, 4月, 北海道新聞
20. 小林快次, 2015. 骨標本は語る: ウタツサウルス〜海を泳いだ魚竜の祖先, 12月, 北海道新聞
21. 小林快次, 2015. 恐竜さんぽ: むかわ町のハドロサウルス科恐竜, 毎日新聞
22. 小林快次, 2015. 恐竜さんぽ: シノオルニトミムス, 毎日新聞
23. 小林快次, 2015. 恐竜さんぽ: ジアンチャンゴサウルス, 毎日新聞
24. 小林快次, 2015. 恐竜さんぽ: デイノケイルス, 毎日新聞

<学会活動> (4件)

PALAIOS: Associate editor (2008~)

JOURNAL OF PALEONTOLOGICAL SOCIETY OF KOREA: Associate editor (2010~)

PALEONTOLOGY JOURNAL: Associate editor (2012~)

日本古生物学会: 評議員 (平成25年~)

ASIAN JOURNAL OF GEOSCIENCES: Associate editor (2013~)

<学会発表等> (12件)

Chinzorig, T., Kobayashi, Y., Tsogtbaatar, K., Watabe, M., Rinchen, B., Suzuki, S.
 2015. 演題「FIRST ORNITHOMIMID (DINOSAURIA) FROM THE DJADOKHTA FORMATION (CAMPANIAN) OF TUGRIKIN SHIRE, MONGOLIA」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).

- Kohno, N., Fiorillo, A. R., Jacobs, L. L., Chiba, K., Kimura, Y., Kobayashi, Y., Nishida, Y., Polcyn, M. J., Tanaka, K. 2015. 演題「DESMOSTYLIAN REMAINS FROM UNALASKA (USA)」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).
- Tanaka, T., Tokaryk, T., Kobayashi, Y. 2015. 演題「A NEW SMALL HESPERORNITHIFORM FROM THE UPPER CRETACEOUS PIERRE SHALE OF MANITOBA」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).
- Yoshida, J., Carpenter, K., Kobayashi, Y. 2015. 演題「FIRST RECORD OF A SOMPHOSPONDYLAN SAUROPOD FROM UTAH, AND PALEOECOLOGY OF SAUROPODS IN UTAH DURING THE ALBIAN」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).
- Hirayama, R., Takisawa, T., Sasaki, K., Sonoda, T., Yoshida, M., Takekawa, A., Mitsuzuka, S., Kobayashi, Y., Tsuihiji, T., Tsutsumi, Y. 2015. 演題「TERRESTRIAL VERTEBRATES FROM THE LATE CRETACEOUS (SANTONIAN) OF IWATE PREFECTURE, EASTERN JAPAN」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).
- Kobayashi, Y., Chinzorig, T., Tsogtbaatar, K., Barsbold, R. 2015. 演題「A NEW THERIZINOSAUR WITH FUNCTIONALLY DIDACTYL HANDS FROM THE BAYANSHIREE FORMATION (CENOMANIANTURONIAN), OMNOGOVI PROVINCE, SOUTHEASTERN MONGOLIA」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).
- Lu, J., Chen, R., Kobayashi, Y., Lee, Y. 2015. 演題「A NEW OVIRAPTORID DINOSAUR (DINOSAURIA: OVIRAPTOROSAURIA) FROM THE LATE CRETACEOUS OF SOUTHERN CHINA」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).
- Takasaki, R., Kobayashi, Y. 2015. 演題「CONSTRUCTION OF A METHOD TO IMPLY FUNCTION OF GASTROLITHS FROM THEIR FEATURES AND ITS APPLICATION TO THE HERBIVOROUS ORNITHOMIMOSAUR SINORNITHOMIMUS」 75th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Dallas, USA).
- 小林快次, ツクトバアタル・チンゾリグ, キシグジャヴ・ツクトバアタル, リンチェン・バルズボルド. 2016. 演題「モンゴルの上部白亜系バラシレ層から発見された二指性のテリジノサウルス類」日本古生物学会165回例会(京都府・京都大学)
- 高崎竜司, 小林快次. 2016. 演題「胃石の形状に基づいた主竜類の食性推定

方法の構築」日本古生物学会165回例会（京都府・京都大学）
田中公教, ディム・トカリク, 小林快次. 2016. 演題「カナダ・マニトバ州
の上部白亜系ピエールシェールから産出した小型のヘスペロルニス科」日
本古生物学会165回例会（京都府・京都大学）
Tsogtbaatar Chinzorig, Yoshitsugu Kobayashi, Khishigjav Tsogtbaatar,
Mahito Watabe, Rinchen Barsbold, Philip Currie, and Shigeru Suzuki.
2016. 演題「First record of an ornithomimid from the Djadokhta
Formation (Campanian) of Togrokiin Shiree, Mongolia」日本古生物学会
165回例会（京都府・京都大学）

<一般講演・セミナー発表>（11件）

小林快次（2015）演題「恐竜博士のトークライブ」旭川市科学館・恐竜の世界
展関連講演（北海道・旭川市）
小林快次（2015）演題「恐竜研究最前線～恐竜時代から学ぶ私たちの将来～」
ふれあいエコ・ゼミナール（宮城県・一ノ関市）
小林快次（2015）演題「北米から日本への長い旅：北海道から発見されたハド
ロサウルス科はどこからやってきたのか」九州大学総合研究博物館公開講
演会（福岡県・福岡市）
小林快次（2015）パネルディスカッション「日本の恐竜研究の将来性」丹波竜
フェスタ（兵庫県・丹波市）
小林快次（2015）演題「恐竜の鳥化」北海道大学総合博物館土曜市民セミナー
（北海道・札幌市）
小林快次（2015）CISE冬休み自由研究講座「恐竜クイズ」札幌市中央図書館（北
海道・札幌市）
小林快次（2015）演題「恐竜の科学」札幌市青少年科学館（北海道・札幌市）
小林快次（2015）演題「恐竜発掘最前線」北海道大学・産総研若手研究者研究
交流会（北海道・札幌市）
フィリップ・カーリー・小林快次（2015）記念講演「カナダ・アルバータ州のバ
ッドランドにおける恐竜探索」御船町恐竜博物館（熊本県・御船町）
小林快次（2015）演題「モンゴルから発見された2本指のテリジノサウルス類」
北海道大学総合博物館シンポジウム 絶滅動物化石の最新研究 in 2016,
Recent studies on fossils in 2016（北海道・札幌市）
小林快次（2015）ちえりあ講演会「発掘から見える私たちのまちと未来～恐
竜研究最前線～」ちえりあ（北海道・札幌市）

<教育活動>

学位論文主査・副査：

・理学院 自然史科学専攻 地球惑星システム科学講座担当：修士論文指導主査3名

指導学生・授業等：

・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）
学部1名、研究科9名（修士6名、博士4名）（理学研究科、兼任）

授業等：（10件）

全学教育 複合科目「生物の多様性」（分担）
全学教育 基礎科目「自然科学実験」（分担）
理学部地球科学科選択必修科目「古生物学」（分担）
理学部地球科学科選択必修科目「地質学実習」（分担）
理学部地球科学科選択必修科目「地球惑星科学実習」（分担）
理学院共通科目「地球惑星システム科学概論」（分担）
大学院共通科目「新自然史科学特別講義～地球と生命の自然史」（分担）
大学院共通科目「博物館学特別講義I」（分担）
大学院共通科目「博物館学特別講義II」（分担）
学芸員養成課程授業「博物館学芸員実習指導」

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等（5件）

総合博物館運営委員会委員、総合博物館点検評価委員会委員、学術標本検討専門委員会委員、企画展示専門委員会委員、ミュージアムショップ運営委員

<社会貢献>（2件）

大阪大学総合学術博物館外部評価委員
文部科学省教科書検定委員会（2013年～）
National Geographic Asia Committee（2015年～）

<外部資金>（3件）

【代表】小林快次：科学研究費「恐竜の食性復元と鳥類起源におけるその意義」（2015-）平成27年度-平成29年度

【分担】Anthony Fiorillo（米国ペロー博物館）アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」（2015）

【分担】Anthony Fiorillo（米国ペロー博物館）アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州ノーススロープ山恐竜調査」（2015）

山本順司

YAMAMOTO Junji

資料開発研究系 准教授

○研究内容の概要

地球内部に存在する揮発性成分の起源

地球は太陽系が形作られる過程において微惑星や塵の集合によって生まれたと考えられている。もしこの考えが正しいのであれば、地球と隕石は似た化学成分であるべきであろう。もしこの類似性が確認できれば、地球がどのようなタイプの隕石の集合によって生まれたのかといった太陽系の進化史に重要な楔を打つことができるであろう。しかし、地球は誕生後に核の形成や大気の生成など大規模な化学的分化過程を経ているため、化学的活性度が高い元素に着目すると、隕石と地球は全く異なった特徴を見せることになる。

そこで我々は化学的に不活性な希ガスや窒素に着目し、その元素比だけでなく同位体組成も考慮して隕石と地球物質との比較をおこなった。その結果、地球内部と大気、炭素質コンドライトなどの隕石との類似性が明らかになった。

○2015年度の研究・活動業績

<原著論文>

[査読付き]

Shitaoka Y., Moriwaki H., Akai F., Nakamura N., Miyoshi M. and Yamamoto J. (2016) Eruption age of Sakurajima-Satsuma tephra using thermoluminescence dating. *Bulletin of Geo-Environmental Science* 18, 29–35.

下岡順直, 山本圭香, 山本順司 (2016) 減災教育を意識した液状化現象実験観察の実践例. *地球環境研究* 18, 71–78.

田中公教, 三嶋渉, 高畑幸平, 榊山匠, 山本順司 (2016) 天文シミュレーターMitakaを用いたプログラム公演と大学博物館展示の連携: 化石展示との連携を事例して. *地学教育*, 印刷中

田中公教, 岩波連, 神田いずみ, 山本順司, 福澄孝博 (2015) 天体シミュレーターソフトウェア Mitaka を用いた大学博物館の新たな試み: “宇宙展示” と “考古展示” の連携. *Computer & Education*, 印刷中.

三嶋渉, 山本順司, 在田一則, 鳥本淳司, 田中公教, 酒井実 (2015) 凍結融解の発生機構を理解する実験手法の開発: 1時間で10回分の風化を引き起こす. *地学教育*, 68, 59–67.

[査読なし]

平野直人, 油谷拓, 山本順司 (2016) 歯舞群島と色丹島の地質資料と岩石試料の重要性.

東北アジア研究 20, 61-73.

山本順司 (2015) 隠岐に火山がある不思議. 隠岐の文化財 32, 1-10.

<総説・解説・報告等>

山本順司, 高畑幸平, 鳥本淳司, 石橋秀巳 (2015) マントル捕獲岩の流体包有物から読み

取れる情報. 地学雑誌, 124, 429-443.

<学会活動>

所属学会

日本地球化学会 (評議員), 日本地球惑星科学連合, 日本鉱物科学会, 日本地質学会, 東京地学協会, 日本環境教育学会, 日本地学教育学会, American Geophysical Union, The Geochemical Society

<学会発表等>

山本順司, Mark D. Kurz, 2015. 深部マントルのアルゴン同位体比. 質量分析学会同位体比部会, 2015年11月26日, 滋賀県大津市 (湯の宿木もれび)

<一般講演・セミナー発表>

山本順司, 2015. 「地球深部にひそむ隕石をさぐる」2015年11月14日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)

<教育活動>

学位論文主査・副査:

- ・理学院 自然史科学専攻 地球惑星システム科学講座担当:
平成27年度 (修士論文指導主査1名, 副査3名)

指導学生・授業等:

- ・教育 (各学年の学部・研究科指導学生数)
平成27年度 理学部3名、理学研究科3名 (修士2名、博士1名)

授業等:

理学部専門科目

「地球資源科学」 (主担)

- 「地球惑星科学実験 1」 (分担)
- 「地球惑星科学研究 I・II」 (分担)
- 「地球惑星科学文献購読 I・II」 (分担)

理学院科目

- 「資源地質科学」 (主担)
- 「地球惑星システム科学概論」 (分担)
- 「自然史科学特別研究 I・II・III・IV・V」 (分担)
- 「自然史科学論文購読 I・II・III・IV・V」 (分担)

大学院共通授業科目

- 「博物館学特別講義I (学術標本・資料学)」 (分担)
- 「博物館展示論」 (分担)

全学教育

- 総合科目「北大大学博物館で学ぼう「コレクション・もの」にこだわる科学」
(分担)
- 一般教育演習「北大総合博物館で学ぼうー博物館のバックヤードを知るー」
(分担)
- 一般教育演習「博物館情報メディア」 (分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (4件)

- 総合博物館運営委員会委員
- 展示専門委員会委員
- ミュージアムショップ運営委員
- 札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会

博物館教育

(出前講座 2件)

- 「凍結融解 一石が砂になるメカニズムー」応用物理学会北海道支部主催
「リフレッシュ理科教室交流会」, 2015年10月24日, 北海道札幌市
(北海道大学工学部) 山本順司・三嶋渉・塚田則夫
- 「凍結融解 一石が砂になるメカニズムー」藻岩高校「環境教育講座」,
2015年9月18日, 北海道札幌市(北海道大学総合博物館) 山本順司・
三嶋渉

博物館展示企画:

2015年度（2件）

企画展示名：「中谷宇吉郎復元研究室のガイドツアー」（主担当）、会場：
北海道大学総合博物館、期間：2015年9月26日

企画展示名：「雪の科学者・中谷宇吉郎」（当館担当）、会場：小樽市総
合博物館、期間：2015年12月19日-2016年4月10日

博物館各種担当

博物館ホームページ担当

サステナビリティウィーク担当

募金促進WG担当

標本担当（鉱物・岩石・鉱石・機器）

ボランティア担当（地学・4Dシアター・ハンズオン展示・チェンバロ・
展示改訂（地学））

<学外委員等> 2件

1. 大分県温泉調査研究会 委員
2. 大分に青少年科学館を作る会 事務局メンバー

<外部資金>

【代表】山本順司：科学研究費補助金，基盤研究（B）「捕獲岩の温度
圧力情報から探る100mオーダーのリソスフェア構造」平成25年
度ー平成27年度

【代表】山本順司：科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究「ゼロ次元応力
源を利用した鉱物の弾性特性測定法の開発」平成26年度ー平成
28年度

<共同研究>

2015年度

東京大学大気海洋研究所 外来研究員

愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター「先進超高压科学研究拠
点」設備利用型共同研究 共同研究員

江田真毅

EDA Masaki

資料開発研究系 講師

○研究内容の概要

1. 中国における家禽飼育の歴史の解明

ニワトリ、アヒル、シナガチョウの飼育は、考古資料から約7,500年前～約6,000年前（新石器時代）の中国において、世界で最初にはじまったとされている。しかし、これらの見解には疑義も呈されており、新たな資料の分析や資料の再検討が求められている。中国における家禽飼育の歴史を明らかにするために、袁靖氏・呂鵬氏（ともに中国社会科学院考古研究所科技考古センター）、菊地大樹氏（京都大学）らとの共同研究として、新石器時代や青銅器時代の中国の遺跡から出土した鳥類遺体の分析をおこなった。

2. ナスカの地上絵に描かれた鳥類と利用された鳥類の解明

ナスカの地上絵は、主にナスカ期（約2,100年前～1,300年前）にペルー南部の砂漠台地に描かれた一連の図像群で、世界遺産（文化遺産）にも登録されている。ナスカ社会は文字を持たない文化であったことなどから、これらの図像が何の目的で描かれたのか、描かれたものは何かなどはよくわかっていない。これまで、全体的な印象やごく少数の特徴的な形態形質を根拠に同定されてきた鳥類の図像を複数の形態形質に基づいて再検討している。また、ナスカ市にあるほぼ同時期のカワチ神殿遺跡やベンティヤー遺跡から出土した鳥類遺体を分析している。坂井正人教授（山形大学人文学部）やDr. Giuseppe Orefici（アントニーニ博物館）などとの共同研究。

3. 日本国内の遺跡から出土した鳥類骨の分析

山野遺跡（千葉県袖ヶ浦市・縄文時代）、西ヶ原遺跡（千葉県・縄文時代）、養安寺遺跡（千葉県・縄文時代）、唐古鍵遺跡（奈良県奈良市・弥生時代）から出土した鳥類遺体を調査した。資料中に含まれる分類群の構成や解体・加工の痕跡などに基づいて各遺跡を形成した人々の活動域や狩猟技術、生業の季節性などについて動物考古学の観点から検討するとともに、考古動物学的視点か

ら過去の鳥類相を明らかにした。

4. 骨の同定基準の作成

遺跡出土資料の同定のために、山階鳥類研究所においてキジ科やウミスズメ科などの現生骨格標本を調査した。また博物館ボランティアの協力を得て、鳥類を中心とした骨標本の収集に努めた。

5. アホウドリの保全遺伝学的研究

アホウドリ (*Phoebastria albatrus*) は特別天然記念物の海鳥で、主に伊豆諸島鳥島と尖閣諸島(南小島と北小島)で繁殖する。これまでの研究から、鳥島と尖閣諸島で生まれたアホウドリは別の集団を形成している可能性が示唆されているが、両集団の関係性はまだ未解明な点が多い。綿貫豊氏(北海道大学水産学研究院・総合博物館資料部研究員)、佐藤文男氏・出口智広氏(ともに山階鳥類研究所)、泉洋江氏(総合博物館資料部研究員)らとの共同研究として、遺伝的、生態的、形態的観点から両集団の関係性について検討した。

6. コラーゲンタンパクを用いた鳥類骨の同定基準の作成

遺跡出土動物骨をコラーゲンタンパクのアミノ酸配列の違いから同定する方法は2010年代になって急速に進んでいる。これまで、哺乳類や魚類を対象とした研究例がある一方、鳥類を対象とした研究は世界的にも稀である。主に日本産鳥類を対象に、骨中のコラーゲンタンパクの大部分を占めるI型コラーゲンのアミノ酸配列の解析から、種同定に有効なアミノ酸配列の特定を目指して研究している。川上和人氏(森林総合研究所)との共同研究。

○2015年度の研究・活動業績

<原著論文> (8件)

Eda, M., Koike, H., and Higuchi, H. (in press) Understanding prehistoric maritime adaptations in northern Japan: indirect evidence from ancient DNA and histological observations of albatross (Aves: Diomedidae) bones. *Quaternary International*. DOI:10.1016/j.quaint.2015.06.067 【査読有】

Conrad, C., Higham, C., Eda, M., and Marwick, B. (in press) Paleoecology and

forager subsistence strategies during the Pleistocene-Holocene transition: A reinvestigation of the zooarchaeological assemblage from Spirit Cave, Mae Hong Son Province, Thailand. *Asian Perspectives* 55 【査読有】

Eda, M., Lu, P., Kikuchi, H., Li, Z., Li, F., and Yuan, J. 2016. Reevaluation of early Holocene chicken domestication in northern China. *Journal of Archaeological Science* 67: 25–31. doi:10.1016/j.jas.2016.01.012 【査読有】

江田真毅 2016 「家畜化に伴う骨形態の小進化と弥生時代のニワトリ」*動物考古学* 33: 49-61 【査読有】

Eda, M., Yashima, S., and Inoué, T. 2015. Medullary bone in goose remains: A reliable indicator of domestic individual in non-breeding regions. *International Journal of OsteoArchaeology* 25: 849-854. DOI: 10.1002/oa.2355 【査読有】

袁靖・吕鹏・李志鹏・邓惠・江田真毅 2015. 「中国古代家鸡的再研究」*南方文物* 2015-3: 53-57 【査読有】

李凡・吕鹏・江田真毅・袁靖・朱延平 2015. 「滕家岗遗址鸟类遗存研究—兼述中国鸟类遗存动物考古学研究的回顾与展望」*华夏考古* 2015-1: 34–40 【査読有】

江田真毅・安部みき子・丸山真史・藤田三郎 2016. 「唐古・鍵遺跡第 58 次調査から出土した動物遺存体」*田原本町文化財調査年報* 24 : 119-132 【査読無】

<総説・解説・報告等> (6件)

江田真毅・松井章・孫国平 2016. 「田螺山遺跡における鳥類利用」『中国新石器時代における家畜・家禽の起源と、東アジアへの拡散の動物考古学的研究』松井章・菊地大樹編、23-42 【査読無】

江田真毅 2016. 「鳥類」『山野貝塚総括報告書 房総半島に現存する最南部の縄文時代後・晩期の大型貝塚』袖ヶ浦市教育委員会、211-217 【査読無】

江田真毅 2016. 「骨標本は語る：カッコウ～樹上生活に適した足，2月」*北海道新聞*

江田真毅 2015. 「骨標本は語る：キツツキ～ノミ状の頭部衝撃分散，11月」*北海道新聞*

江田真毅 2015. 「骨標本は語る：カワセミ～不釣合いに太く長いくちばし，9月」*北海道新聞*

江田真毅 2015. 「骨標本は語る：カラス～2種 of 食物に大きな差，7月」*北海*

道新聞

<学会活動>

日本動物考古学会、北海道考古学会、文化財科学会、International Council for Archaeozoology、日本鳥学会、生き物文化誌学会

<学会発表等> (10 件)

Eda, M., Kikuchi, H., Sun, G., and Matsui, A. “Were chicken exploited in the Neolithic early rice cultivation society in the lower Yangtze River? A preliminary study of bird remains from Tianluoshan Site, Zhejiang” ICAZ BWG. The University of Texas Rio Grande Valley. 14th Jan. 2016.

江田真毅・泉洋江・渡辺ユキ・今野怜・今野美和・佐藤文男「アホウドリ2集団の交雑」日本鳥学会、兵庫県立大学、2015年9月20日。

江田真毅「「考古鳥類学」の現状と課題」日本鳥学会、黒田賞受賞講演会、兵庫県立大学、2015年9月19日（招待講演）。

泉洋江・江田真毅・渡辺ユキ・今野怜・今野美和・佐藤文男「鳥島で繁殖しているアホウドリのマイクロサテライトDNA解析」日本鳥学会、兵庫県立大学、2015年9月19日。

稲田薫・江田真毅「遺跡出土資料による過去のウミスズメ科鳥類相復元に向けて」日本鳥学会、兵庫県立大学、2015年9月19日。

Toyoda, A., Eda, M., Sato, T., and Masuda, R. “Ancient DNA analysis of the Japanese sea lion for study of the evolutionary position”. IWMC 2015. Sapporo, Aug. 2015.

Eda, M., Sakai, M., and Orefici, G. “Drawn birds and dedicated birds in the Nasca culture: comparing birds in the Nasca Geoglyph with birds from the temples of Cahuachi, Nasca”. Congreso Internacional de Americanistas. San Salvador. 13th. July. 2015.

岩波連・江田真毅「レプリカ法による解体痕研究の試み-解体に使用した道具の復元をめざして-」動物考古学会、奈良文化財研究所、2015年7月5日。

江田真毅・孫国平「中国新石器時代の初期稲作集落における鳥類利用-浙江省・田螺山遺跡の事例研究-」動物考古学会、奈良文化財研究所、2015年7月4日。

江田真毅・山本順司「不都合な真実？-北大総合博物館における来館者数と企画展示の関係-」博物科学会、金沢大学、2015年6月26日。

<一般向け講演・セミナー発表等> (4件)

Eda, M. “How do we identify red junglefowl and chicken bones from archaeological sites in Thailand?” HCMR II, Toshi Center Hotel, Tokyo, 26th Sep. 2015.

江田真毅「ナスカの地上絵を鳥類形態学と動物考古学から考える」土曜市民セミナー、北海道大学総合博物館、2015年8月7日。

江田真毅「鶏と人の関係についての世界的な学術動向ー動物考古学の視点からー」HCMR II会合、東京大学総合研究博物館、2015年6月19日[招待講演]。

江田真毅・坂井正人「鳥類形態学と動物考古学からナスカの地上絵の謎に挑む」『古代アメリカの比較文明論』第2回研究者全体集会、国立民族学博物館、2015年6月7日。

<教育活動>

学位論文主査・副査

理学院 自然史科学専攻 多様性生物学講座担当

平成26年度 (修士論文指導副査2名、博士論文指導0名)

指導学生等

2015年度 院生2名 (分担) (修士1名、博士1名)

研究生1名 (総合博物館)

授業

全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」 (分担)

全学教育 総合科目「「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館」 (主担)

全学教育 総合科目「ヒグマ学入門」 (分担)

大学院共通科目 「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」 (分担)

理学院 「多様性生物学研究法」 (分担)

理学院 「進化学概論 系統地理学」 (分担)

学芸員養成過程 「博物館情報・メディア論」 (分担)

学芸員養成過程 「博物館情報展示論」 (分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員、学術標本検討専門委員会委員、企画展示専門委員会委員、札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会

博物館教育

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会（野外観察会）（2015年6月20日）

セミナー・シンポジウム開催（企画、運営）

なし

博物館企画展示

なし

編集・出版

北海道大学総合博物館研究報告第8号「オホーツク文化の研究 4 目梨泊遺跡」
編集担当

データベースの構築・公開

「考古学資料検索システム」

(<http://database.museum.hokudai.ac.jp/archaeology/search.php>)

<学内各種委員>（1件）

北海道大学における人類学的・考古学的学術資料の収集・保存・利用に関する
基本方針策定部会 委員

<社会貢献>（2件）

日本動物考古学会・学会誌編集委員

Ornithological Science 副編集委員長

<外部資金>（7件）

【代表】江田真毅：科学研究費「遺跡出土試料の複眼的・理化学的解析による

中国における家禽化プロセスの解明」(若手研究(B))平成24年度～平成27年度

【代表】江田真毅：科学研究費「「鵜を抱く女」が抱く鳥は何か？コラーゲンタンパクによる遺跡出土鳥類骨の同定」(挑戦的萌芽研究)平成27年度～平成29年度

【分担】高瀬克範(代表：北海道大学)：科学研究費「千島アイヌの起源と経済史に関する考古学的研究」(基盤研究(A))平成27年度～平成31年度

【分担】綿貫豊(代表：北海道大学)：科学研究費「渡りと遺伝的分化に着目したアホウドリの保全単位の解析」(挑戦的萌芽研究)平成27年度～平成29年度

【分担】坂井正人(代表：山形大学)：科学研究費「アンデス比較文明論」新学術領域研究(研究領域提案型)平成26年度～平成30年度

【分担】澤田純明(代表：新潟医療福祉大学)：科学研究費「東南アジア大陸部における家畜化プロセスの総合的解明(澤田純明)」(基盤研究(B))平成27年度～平成30年度

【分担】加藤博文(代表：北海道大学)：研究拠点形成事業－先端拠点形成型「北方圏における人類生態史総合研究拠点」平成25年度～平成29年度

湯浅万紀子

YUASA Makiko

博物館教育・メディア研究系 准教授

○研究内容の概要

1. 博物館体験の長期的インパクトを検証する調査研究

日本ではまだ体系的に実施されていない博物館体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残る博物館体験を調査し、その記憶を続く世代へとつなぐための博物館活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらない博物館体験の多様な意味を明らかにすると同時に、博物館活動の意義を検証し、博物館資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。

2. 大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究

大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。

3. 展示評価に関する調査研究

展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。

4. 博物館評価に関する調査研究

前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活

動のあらゆる局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。

5. 新しいミュージアム像に関する調査研究

博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。

○2015年の研究・活動業績

<原著論文> (2件)

湯浅万紀子, 藤田良治, 2016. 大学博物館の企画展示のあり方に関する検討—北海道大学総合博物館を事例として, 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要, 20: 27-34.

清水寛之, 湯浅万紀子, 2016. 記憶特性質問紙 (MCQ) による科学館体験の自伝的記憶に関する検討—科学館職員, 大学生, および高齢者における小学生の頃の科学館への好意度の分析—, 人文学部紀要 (神戸学院大学人文学部), 36: 167-182.

<著書・図録・目録等> (2件)

湯浅万紀子, 2014. ミュージアム・コミュニケーション——関与者にとっての意味, 湯浅万紀子編著『博物館情報学シリーズ5 ミュージアム・コミュニケーションと教育活動』, 樹村房, 2016 (出版予定)

Anderson, David 著, 湯浅万紀子訳, 2015. The role of the museums as sites for learning how to teach and change educational practices (教育実践を指導し変革する方法を学ぶ場としての博物館の役割), 湯浅万紀子編著『博物館情報学シリーズ5 ミュージアム・コミュニケーションと教育活動』, 樹村房, 2016 (出版予定)

<総説・解説・報告等> (7件)

湯浅万紀子, 2015. 学生が運営する「土曜市民セミナー」, 北海道大学総合博物館ニュース, 32:10.

湯浅万紀子, 2015. 2015年度第1・2回ボランティア講座&交流会, 同上, 32:11.

湯浅万紀子, 2015. 2015年度道新ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」, 同上, 32:13.

湯浅万紀子, 2015. 卒論ポスター発表会, 同上, 31:10.

湯浅万紀子, 2015. 2014年度第2回ボランティア講座&交流会, 同上, 31:11.
湯浅万紀子, 2015. サイエンスパーク in 北海道大学, 同上, 31:12.
湯浅万紀子, 2015. 「エルムの杜の宝もの」一道新ぶんぶんクラブとの共催講座を開催, 同上, 31:12.

<学会活動> (3件)

第54回北海道博物館大会 研究大会コーディネータ (主催 北海道博物館協会・日本博物館協会北海道支部), 北海道博物館, 2015年7月10日
日本ミュージアム・マネジメント学会第21回大会実行委員
北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 『科学技術コミュニケーション』編集委員
所属学会: 博物科学会, 日本科学教育学会, 文化資源学会, 日本ミュージアム・マネジメント学会, American Alliance of Museums.

<学会発表等> (2件)

湯浅万紀子・清水寛之, 2015. 2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告, 「2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告会 (明石市立天文科学館編), 明石市立天文科学館, 2015年2月6日.
湯浅万紀子・清水寛之, 2015. 2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告, 「2015「博物館体験の長期記憶に関する研究」報告会 (名古屋市科学館編), 名古屋市科学館, 2015年1月31日.

<一般講演・セミナー発表> (2件)

湯浅万紀子, 2015. 記憶のなかの科学館—50年前から紡がれる科学館体験, 北海道大学総合博物館土曜市民セミナー・道民カレッジ連携講座, 北海道大学, 2016年3月19日.
湯浅万紀子, 2015. 博物館学講座, 北海道大学総合博物館ボランティア講座, 北海道大学, 2015年7月11日.

<教育活動>

学位論文主査・副査・
指導 理学院 自然史科学専攻 科学コミュニケーション講座
博士後期課程1名、博士前期課程1名

授業等:

1. 全学教育科目「「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館」(分担)

2. 博物館教育論（担当）
3. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価」（担当）
4. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅱ 基礎からわかる映像表現」（分担）
5. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価」（担当）
6. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像制作とスノーボード」（分担）
7. マイスターコース社会体験型科目「土曜市民セミナーの運営（前期）」（担当）
8. マイスターコース社会体験型科目「土曜市民セミナーの運営（後期）」（担当）
9. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会」（担当）
10. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会の運営」（担当）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員

学術標本検討専門委員会委員

企画展示専門委員会委員

ミュージアムショップ運営委員

博物館教育

ミュージアムマイスターコース担当

土曜市民セミナーの運営

卒論ポスター発表会の発表指導

卒論ポスター発表会の運営指導

総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」企画・運営

大学院生企画プロジェクト「博物館×キャラクター計画」（指導）

大学院生開発ミュージアムグッズ「博物館クリアファイル（仮称）」（開発と評価を指導）

ボランティア・マネジメント担当
ボランティア展示解説グループ、ハンズオングループ担当
ボランティア講座&交流会 企画運営

編集・出版

北海道大学総合博物館ニュース 31号、32号 編集担当

<学内各種委員> (5件)

総長補佐 広報室担当
高等教育機能開発総合センター研究員
全学教育担当委員 総合博物館
オープンエデュケーション専門委員 理学院
理学院自然史科学専攻科学コミュニケーション講座 将来構想委員

<外部資金> (3件)

【代表】湯浅万紀子：日本学術振興会科学研究費 基盤 (C) 「高齢者の長期記憶に基づく異世代間交流の場としての博物館の基盤形成に関する研究」平成27-30年度

【分担】藤田良治（北海道大学）：日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (C) 「森林生態系に関する視覚情報教材「全天トレイル」の開発」平成27-30年度

【分担】David Anderson（ブリティッシュ・コロンビア大学）：カナダ政府 人文社会科学研究評議会 (Social Science Research and Humanities Council, SSRHC) からの研究助成「博物館体験と『懐かしさ』反応に基づく来館者の長期記憶に関する研究」（2012-2016）

藤田良治

FUJITA Yoshiharu

博物館教育・メディア研究系 助教（平成27年1月まで）

○研究内容の概要

現在、博物館の展示は、より分かりやすく、より関心を高められる工夫として、映像やCGなどのメディアコンテンツを活用することが期待されている。博物館映像学では「博物館における学術映像標本の活用とその制作手法」を研究テーマに掲げている。さまざまな種類のメディアコンテンツの中でも、現代社会で幅広く活用されている映像メディアに焦点を当て、来館者に向けたメッセージを的確に伝えるためのコンテンツ制作の開発、および映像制作教育における方法論の研究を行なっている。

1. 博物館映像学

映像を学術映像標本としてとらえ、収集、保存し研究すること。さらに教育へ活用する方法など博物館と映像の関係について体系化する事を目指す。

2. 教育プログラムの開発

映像を活用した教育プログラムの開発を行う。映像を使った教材開発として、授業やインターネットで配信し受講者の理解を促進、興味関心を喚起する視覚情報教材の開発を行う。実践的な、映像制作を通して、企画力や物事をとらえる力を養う教育プログラムを開発する。

3. 学術映像標本に関する研究

撮影した映像素材を学術映像標本として収集、保存、整理するための方策を研究する。映像素材とは映像作品や映像コンテンツを制作するために撮影された映像を指す。映像素材に対して学術的な価値を付加することで学術映像標本となり得る。

4. 映像資源活用論

情報発信や映像教育に活用することを目的としたデジタルアーカイブスのあり方を追求し、メタデータとのひも付けや、コンテンツや素材の保存方法について研究する。研究成果は、次世代に向けた知の記録となることを目指す。

○2014年度の研究・活動業績

＜原著論文＞（2件）

1. 沼崎麻子, 藤田良治他, 2014. 成人ASD (自閉症スペクトラム障害) 当事者の博物館利用の現状と課題: 「科学コミュニケーション」の場としての博物館の役割に着目して, 科学技術コミュニケーション, 15, 73 - 89.
2. 湯浅万紀子・藤田良治, 2015. : 大学博物館における特色ある教育プログラムの意義と課題——北海道大学ミュージアムマイスター認定コースを事例として, 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要, 19, 43-50.

<著書・図録・目録等> (10件)

1. 藤田良治, 2015. 博物館映像学からみるミュージアム・コミュニケーションの広がり, 湯浅万紀子編『博物館情報学シリーズ5 ミュージアム・コミュニケーションと教育活動』, 樹村房 (出版予定)
2. 藤田良治他 (共著), 2015. 制作編 ーフィールドと映像のさまざまなかたち 博物館映像学の観点からみた北極海における撮影の意義フィールド映像術(FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ15), 古今書院
3. 藤田良治・湯浅万紀子編著, 2014. 学船 北海道大学 洋上のキャンパスおしよろ丸, 中西出版
4. 藤田良治・湯浅万紀子, 2014. 函館キャンパス水産科学館から始まった夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」, 北海道大学総合博物館ニュース, 29, 1.
5. 藤田良治, 2014. 新緑と銀世界の季節に行う授業 ー映像制作, 北海道大学総合博物館ニュース, 29, 1-11.
6. 藤田良治, 2014. 夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」報告, 北海道大学総合博物館ニュース, 30, 3-4.
7. 藤田良治, 授業紹介 博物館コミュニケーション特論 II 映像制作夏の陣, 北海道大学総合博物館ニュース, 30, 7.
8. 藤田良治, 2014. 入館者 100 万人達成, 北海道大学総合博物館ニュース, 30, 10.
9. 藤田良治, 2014. 北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター : 認定コースのご案内担当
10. 柴田英昭, 藤田良治, 2014. 視覚情報教材, 研究林全天トレイル. 北海道大学環境科学院 URL、<http://forestcsv.ees.hokudai.ac.jp/wst/>

<映像作品等> (9 件)

1. 藤田良治, 2015. 北海道大学広報映像 留学希望者向け ショートバージョン、広報課・国際本部、3' 00"

2. 藤田良治、2015. 北海道大学広報映像 留学希望者向け ロングバージョン、広報課・国際本部、15' 00"
3. 藤田良治、2014. ホームカミングデー2014 おかえりなさい「エルムの森」のキャンパスへ、北海道大学広報映像、クラーク会館、15' 27"、2014
4. 藤田良治、フロンティア基金、2014. 北海道大学紹介、北海道大学広報映像、100年記念会館、15' 20"
5. 藤田良治、2014. 学船洋上のキャンパスおしよろ丸 展示映像 「造船」おしよろ丸V世ができるまで、総合博物館、6' 14"
6. 藤田良治、2014. 学船洋上のキャンパスおしよろ丸 展示映像 「仕事」おしよろ丸V世ができるまで、総合博物館、8' 50"
7. 藤田良治、2014. 学船洋上のキャンパスおしよろ丸 展示映像 「研究」おしよろ丸V世ができるまで、総合博物館、11' 34"
8. 藤田良治、2014. 学船洋上のキャンパスおしよろ丸 展示映像 「教育」おしよろ丸V世ができるまで、総合博物館、10' 35"
9. 藤田良治、2014. 北海道大学総合博物館 開館15周年100万人達成記念セレモニー、総合博物館、2' 58"

<学会活動、社会貢献> (4件)

1. サイエンス映像学会 理事・正会員 (2010年以降)
2. 日本科学ジャーナリスト会議 正会員 (2010年以降)
3. 博物科学会 正会員 (2011年以降)
4. 北海道大学生生活協同組合 理事 (2014年以降)

<学会発表等> (5件)

1. Mitsutaka FUJITA, Yoshiharu FUJITA, Noriko NISHINARI, Kozo NAGATA, SatoshiONOZAKI, & Goro KOIDE, Photographic Database of Ashio Copper Mine in 19th Century of Japan, AAAS Annual Meeting, 12-16 February 2015
2. Hideaki SHIBATA, Yoshiharu FUJITA, Web-based education tool using an ILTER site, 22nd ILTER annual meeting and the first All Scientists Meeting, Universidad Austral in Chile, 4-8 December 2014
3. 藤田良治、シンポジウム 大学ミュージアムを熱く語る -街と大学の“記憶”をめぐって- 「高等教育機関における大学博物館の役割」、2014年11月23日、大阪大学中之島センター (招待講演)
4. 藤田良治、FENICS100万人のフィールドワーカー・シリーズ出版記念会「映像を活用した企画展示」、2014年11月1日、清澄庭園 大正記念館 東京

5. 藤田良治、第9回博物科学会「魅せる、大学博物館 ―北海道大学総合博物館夏季企画展「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」を事例として」、2014年6月20日、愛媛大学

<一般講演・セミナー発表> (4件)

1. 第80回サイエンス・カフェ札幌「書を捨てよ 海へ出よう ～洋上のキャンパス“おしよろ丸”とともに～」、2015年1月25日、紀伊國屋書店札幌本店1階インナーガーデン 札幌
2. 藤田良治、北大総合博物館土曜市民セミナー 道民カレッジ連携講座「映像で見るおしよろ丸IV世」、2014年7月12日、北海道大学総合博物館 札幌
3. 藤田良治、「博物館映像学の可能性、おしよろ丸特別講義」、太平洋・父島周辺航海上、2014年12月12日
4. 総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」 「博物館が映像を創ると、おもしろい」、2014年6月28日

<教育活動>

学位論文主査・副査：

指導 理学院 自然史科学専攻 科学コミュニケーション講座

博士後期課程1名、博士前期課程1名

授業等：

1. 環境と人間 「北大総合博物館で学ぶ「モノ」「コト」「ヒト」」(分担)
2. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価」(分担)
3. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 II 基礎からわかる映像表現、博物館における映像表現」
4. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価」(分担)
5. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 IV 映像制作とスノーボード」
6. 大学院共通授業「博物館学特別講義II 展示・教育・活動評価」(担当)
7. 学芸員養成課程科目 博物館情報・メディア論、博物館学IIb(視聴覚教育論含む) ゲスト講義
8. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会の運営」

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

1. 学術標本検討専門委員会委員
2. ミュージアムショップ運営委員
3. ミュージアムマイスターWG

博物館教育

1. 卒論ポスター発表会の発表指導
2. 大学院生企画ワークショップ「Hello, Museum!」2014年7月18日・8月3日（指導）
3. 大学院生開発ミュージアムグッズ「森の未知知るべ」（栞）および木製パズル（開発と評価を指導）
4. 北大ミュージアムクラブ Mouseion「え！？一年生が展示解説」北大元気プロジェクト2014採択企画（指導）
5. ボランティア メディア担当

博物館企画展示

1. 2014年度夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」（担当）
水産科学館 函館キャンパス 2014年5月20日～2014年6月27日
総合博物館 札幌キャンパス 2014年7月11日～2014年11月3日

博物館常設展示

1. 展示室映像メディアコンテンツ制作
2. 北大の四季 ウェルカムモニター上映用コンテンツ

<学内各種委員> (2件)

ホームカミングデー映像制作委員会

フロンティア基金映像制作委員会

<外部資金> (1件)

【分担】学術振興会科学研究費 基盤研究(C)「科学教育番組を活用した iPad アプリの開発と実証に関する研究」（平成24年度-平成27年度）

山下俊介

YAMASHITA Shunsuke

博物館教育・メディア研究系 助教 (平成27年7月より)

○研究内容の概要

研究者が生成・収集した学術資料のうち、写真・映像や音声、フィールドノート、実験ノートなどの学術活動に関わる記録資料は、その資料的価値にも関わらず、体系的に保存する仕組みや活用するための方法論は未だ確立されていない。こうした学術資料のアーカイブの構築実践と関連する問題について研究を進めている。

1. 学術資料の再資源化

学術活動の現場で生み出された記録資料の主要な役割である「証拠性」以降の資料の果たす働きに関心がある。資料にまつわる様々なコンテキストは、資料の相互連繫を強め証拠性を補強する一方で、適切に分節化・抽象化すれば見知らぬ資料同士を結びつけ、研究に用いられる可能性も高められる。このような再資源化に適した学術資料アーカイブズのあり方を研究している。

2. 映像資料学の構築

映像資料学は主として二つの方向を持つ。学術活動を記録し媒体に定着する、博物館資料や学術資料の暗黙知・コンテキスト情報を記録する、あるいは既存の学術資料やそのコンテキストを編集し映像作品として組立て多くの人に伝える、という新しく映像を生み出す取り組みと、もう一つは既存の映像を再資源化するという取り組みである。後者においては、映像メディアの独立性・移動性が原因で、もとのコンテキストから切り離されて残存することが多く、またその方が資料の利便性が高い場合がある。こうした映像資料の特性に合わせたアーカイブズを検討すると共に学術映像資料の分類の検討も行っている。

3. 学術映像史

研究者による映像メディアの利用史研究を行う。研究者自らが主導した映像実践のあり方、映像制作を生業とする職能集団との協働、社会発信の方法などを手掛かりに調査を進めている。

4. 博物館の利用者研究

学術資料アーカイブや博物館資料の利用者は、研究者にとどまらない。特に資料価値が未確立の状態においては、幅広い利用のあり方を検討する必要がある。

資料の利用者研究として、アマチュアやナチュラリストの概念と活動を検討している。また利用者が博物館にどのような公共性概念を抱いているかについても調査を行っている。

5. 博物館の成立環境

プライベートコレクションやプライベートミュージアムの成立・成長過程に関心を持ち研究を進めている。蒐集・開陳に向かう動機の探究のほか、地域や国による文化的・社会的土壌、博物館制度の違いなどを検討している。

○2015 年度の研究・活動業績

< 著書・図録・目録等 >

山下俊介, 2015. 鉄細工と銅細工, 神崎宣武他編『日本文化の百科事典』, 丸善出版.

< 総説・解説・報告等 >

山下俊介, 2015. 新任教員紹介, 北海道大学総合博物館ニュース, 32:7.

< 学会活動, 社会貢献 >

日本ミュージアム・マネジメント学会第 21 回大会・実行委員

学術資源リポジトリ協議会・理事

所属学会: 日本ミュージアム・マネジメント学会, 博物科学会, 日本技術史教育学会, 記録管理学会, 企業史料協議会, 生き物文化誌学会, The Association of Moving Image Archivists

< 学会発表等 >

Shunsuke YAMASHITA, 2015, Applications of Video in Museums, 2015 University Museums Symposium on Museum in Everyday Life, National Taiwan University Agricultural Exhibition Hall, 20th, Nov. 2015.

高田良宏, 林正治, 堀井洋, 堀井美里, 山地一禎, 山下俊介, 古畑徹, 2015. 非文献資料のための学術資源群によるサブジェクトリポジトリの構築 (構想と進捗状況), 大学 ICT 推進協議会 (AXIES) 2015 年度年次大会, 愛知県産業労働センター・ウインクあいち, 2015 年 12 月 2 日~4 日.

山下俊介, 2016. 映像ステーションの果たした役割と新しい映像ステーションへの期待, 第 3 回京都大学研究資源アーカイブ研究会, 京都大学研究資源アーカイブ映像ステーション, 2016 年 2 月 10 日.

<一般講演・セミナー発表>

山下俊介, 2016. 地域資料のアーカイブとフィールドワーク, 平成27年度公開セミナー「民具が語る白山麓の自然と生活」(主催: 白山市文化遺産活用地域活性化委員会) 石川県白山市吉野谷公民館, 2016年3月13日.

山下俊介, 2015, 「のこす」の実践—アーカイブと映像資料学, ボランティア講座交流会, 北海道大学総合博物館, 2015年9月12日.

<教育活動>

全学教育科目「「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館」(分担)

大学院共通授業科目「博物館学特別講義Ⅰ: 学術標本・資料学」(分担)

ミュージアムマイスターコース担当(卒論ポスター発表会の発表指導, 卒論ポスター発表会の運営指導)

[学外]

京都教育大「博物館概論」, 「博物館資料論」

<映像作品等>

記録撮影

地質巡検活動(山本ゼミ巡検, 佐賀県高島, 2015年9月29日)

中川研究林冬山造材作業(北海道中川町, 2016年2月23日~25日, 3月22日~24日)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

学術標本検討専門委員会委員

企画展示専門委員会委員

学部展示新設ワーキンググループ事務局(副担当)

博物館研究会の企画運営(第一回(10/14), 第二回(12/11))

生涯学習支援

メディアボランティアグループ、4Dボランティアグループ担当

<共同研究等>

京都大学総合博物館研究協力者(技術史・研究資源アーカイブ)

<外部資金>

【代表】山下俊介: 日本学術振興会科学研究費 若手(B)「山下俊介: インターメディアを用いた技術史資料情報のユーザー共進化アーカイブプログラムの開発」27-28年度

【分担】岡田温司(京都大学) 日本学術振興会科学研究費 基盤(A)「現代美術の保存と修復-その理念・方法・情報のネットワーク構築のために」平成

27-31 年度

【分担】林正治（一橋大学）日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「研究データ
リポジトリにおける時間軸を意識した版管理モデルの開発と実装」平成
27-29 年度

＜平成27年度の報道記録＞

〈平成27（2015）年度の新聞報道記録〉（セミナー開催告知は除く。）

| | | | |
|----|---------|--------|---------------------------------|
| 1 | 北海道教育通信 | 4月 1日 | 北方民族博物館と北大総合博物館 相互協力協定を締結 |
| 2 | 北海道新聞 | 4月 8日 | 国内外に散った沼貝隕石 |
| 3 | 日本経済新聞 | 5月 5日 | 千島の植物 心は躍る |
| 4 | 北海道新聞 | 6月11日 | 北大第2農場を耐震化 |
| 5 | 北海道新聞 | 6月14日 | 北大構内の歴史的建物 保存活用へ有効策は |
| 6 | 北海道新聞 | 6月27日 | クラーク先生の農業 米国式の畑作、酪農を伝える |
| 7 | 北海道新聞 | 7月 5日 | 世界初の人工雪製作 中谷宇吉郎 「雪博士」の財団設立 |
| 8 | 北海道新聞 | 7月 3日 | 中国に新種恐竜化石 北大など国際チーム発表 |
| 9 | 読売新聞 | 7月 3日 | 北大准教授ら 新種恐竜確認 |
| 10 | 毎日新聞 | 7月12日 | 北大農学部第2農場 酪農や洋式農業の原型 |
| 11 | 日本経済新聞 | 8月16日 | 巨大恐竜 日本に眠る？ |
| 12 | 北海道新聞 | 9月 1日 | 相次ぐ噴火 活動期に入った？ 監視強化し犠牲防げ |
| 13 | 北海道新聞 | 9月14日 | 骨格標本は語る カワセミ 不釣り合いに太く長いクチバシ |
| 14 | 北海道新聞 | 10月 5日 | 道内の化石 進化解明の鍵 「トウベツアカマツセイウチ」新種認定 |
| 15 | 北海道新聞 | 11月 2日 | デスマスチルス 潜水で捕食 幌加内の化石を基に発見 |
| 16 | 北海道新聞 | 11月 8日 | 不思議 恐竜の世界 |
| 17 | 北海道新聞 | 11月 9日 | 骨格標本は語る キツツキ ノミ状の頭部 衝撃分散 |
| 18 | 北海道新聞 | 11月29日 | 恐竜研究 最前線知って むかわ 北大・小林准教授ら講演 |
| 19 | 北海道新聞 | 2月 8日 | 骨格標本は語る カッコウ 樹上生活に適した足 |
| 20 | 北海道新聞 | 2月22日 | 「恐竜の鳥化」研究に学術賞 日本古生物学会 |
| 21 | 北海道新聞 | 3月23日 | むかわ町穂別の化石 「恐竜研究史に残る」 |

〈平成27（2015）年度のテレビ報道〉

- 1 NHK総合テレビジョン
プロフェッショナル仕事の流儀「恐竜学者 小林快次」9月7日
- 2 J-WAVE 岡田准一 Growing Reed 10月25日

(H28.3.31迄)

＜平成27年度の予算状況＞ (2015年度迄)

単位：千円

| 区 分 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 運営費交付金 | 47,781 | 53,974 | 49,609 | 48,635 | 47,503 |

外部資金受入状況等

【科学研究費採択状況】 単位：千円 【科学研究費分担金一覧（他機関から受領する分）】 単位：千円

| 年 度 | 件数 | 金 額 |
|--------|-----|--------|
| 2013年度 | 10件 | 17,400 |
| 2014年度 | 10件 | 16,100 |
| 2015年度 | 7件 | 7,200 |

| 年 度 | 件数 | 金 額 |
|--------|----|-------|
| 2013年度 | 5件 | 1,610 |
| 2014年度 | 6件 | 2,200 |
| 2015年度 | 7件 | 2,555 |

【受託研究受入状況】

単位：千円

| 年度 | 件 名 | 相手方 | 金 額 |
|------|-----------------------------------|-------------------|-------|
| 2013 | レブンアツモリソウの自生地復元に必要な植物 共生生態系の解明 | 独立行政法人 森林総合研究所 | 1,552 |

【奨学寄付金委任経理金の受入状況】

単位：千円

| 年 度 | 件 数 | 金 額 |
|--------|-----|-------|
| 2013年度 | 3件 | 1,240 |
| 2014年度 | 5件 | 5,681 |
| 2015年度 | 3件 | 1,203 |

【総合博物館支援基金】

単位：円

| 受入年度 | 受入金額 |
|--------|---------|
| 2013年度 | 772,707 |
| 2014年度 | 741,294 |
| 2015年度 | 0 |